

外国語の学びと研究のために

CONTENTS

はじめに	····· ii
第1部 ここが違う!政策科学部の言語学習	
I. どんな風に学ぶの?政策科学部における外国語 II. EPS科目 (English for Policy Science) EPS科目について 英語編 II. グローバル言語科目 (LGA=Languages for Global Actions) LGA科目について 1. ドイツ語編 2. フランス語編 3. スペイン語編 4. イタリア語編 5. ロシア語編 5. ロシア語編 6. 中国語編 7. コリア語編 8. インドネシア語編 9. ベトナム語編	4911171921232730
10. タイ語編	
第2部 外国語で書いてみよう! 学びと研究の成果を I. ライティング・チューターを活用しよう	41
I. フィッコン・フューターを沿出しよう II. さあ、書いてみよう!研究レポートのタイトルとアブストラクト 1. ヘルプデスクに駆け込む前に	42 43
Ⅲ. これは使える! 外国語ライティングの手引き1. タイトルとアブストラクトの執筆要項2. 英文レポート執筆要項(日本語版)3. 英文レポート執筆要項(英語版)第 4 版	62
立命館大学政策科学部	

政策科学部の皆さんへ

はじめに

かつて日本の近代化を推進した人々は、外国語の学習を新しい世界の構想を可能にするために不可欠な訓練とみなしていました。日本語に翻訳されていない科学や技術や諸制度を知るために、必死になってヨーロッパの言語を学びました。もっと時代を遡って植民地時代のアメリカに目を移せば、神学者ロジャー・ウィリアムズは他の多くのピューリタンとは異なり、先住民族の文化に関心を持ち、言語を学び、先住民とピューリタンとの対立を回避するのに尽力しました。外国語を修得しなければ、明治時代の日本人もウィリアムズも、このように、新しいもの、未知なるものを吸収し、視野を広げることはできなかったでしょう。

外国語を学ぶことは知的な冒険です。新しい言語を身につけることで、未知なるものを知るだけではなく、それまで当たり前に思っていた自分たちの言語や文化を照らし返す視点をもつことができます。世界には外国語を修得しなければ知りえないことがたくさんあります。また、皆さんが勉強・研究を続けるうちに、日本語を理解しない人々に伝えたいことも出てくるでしょう。「知りたい」「伝えたい」という気持ちや、伝わったときの実感を大切に、見慣れた場所から未知なる世界へ、さあ冒険に出かけましょう。

『外国語の学びと研究のために』は、皆さんが立命館大学政策科学部において、外国語にかかわる学びと研究について知っておくべきことをまとめたものです。この小冊子は二部構成になっています。第 I 部は本学部における外国語学習と研究についてまとめました。多様な学びのシステムだけでなく、普段あまり語られることのない、学部の先生方や皆さんの先輩の、外国語とのかかわりについてのインタビューやエッセイも載せています。第 2 部は本学部が特に重視している外国語ライティングについて説明しています。学部 1 回生から博士課程後期課程の大学院学生まで、年度末に提出する研究成果には外国語によるタイトルあるいはアブストラクトの添付が義務付けられていますから、注意して読んでください。

あらためていうまでもないことですが、外国語の学習や外国語を用いた研究には時間とエネルギーを要します。特に日本の大学で主に日本語で教育を受ける場合は、積極的に外国語を学ぼうという姿勢が求められます。授業時間中の学習のみならず、自学自習が大切です。そのため、外国文化に親しみ、それぞれの目標に向かって能力を向上させるために推薦図書も紹介しています。ぜひ目を通して学習・研究の参考にしてください。

いつでも、どこでも手にとってもらうことを願って、小さな版型にしました。『外国語の学びと研究のために』をコンパスにした、皆さんの知的な冒険が実りあるものになることを期待しています。



政策科学部では2014年度から、EPS科目(English for Policy Science)とグローバル言語科目(LGA = Languages for Global Actions)という新たな枠組みで、外国語学習と専門教育の融合を図っています。本章ではEPS科目とグローバル言語科目の特徴を説明するとともに、政策現場における外国語の重要性について、先生方にインタビューをしています。英語に加えてLGAで皆さんが学ぶ可能性のある10言語について、各言語を研究で使用されている先生方にお話を伺っています。LGAで言語を選択する際の参考にしてください。

I. どんな風に学ぶの? 政策科学部における外国語

Interview



重森 臣広先生

■専門分野:政治思想

■ 先生のご専門を教えてください。

大学院在学中からずっと、イギリスの政治思想を研究してきました。17世紀のトマス・ホッブズから、18世紀のデヴィッド・ヒューム、そして18世紀から19世紀にかけて活躍したジェレミー・ベンサムへと、研究対象を広げてきました。学外研究の機会を得て、1年間、ケンブリッジ大学に滞在したときに、救貧行政史やイギリスの優生運動に関心をもち、以来、この方面の史料研究も行なっています。

■ 外国語を学ぶとコミュニケーションの可能性が拡大しますね。

その通りだと思います。ただ、外国語との触れ方もい

ろいろで、私の場合は、もう死んでしまった哲学者、理論家たちが書き残したもの、これには著作だけではなく、手紙や日記やメモも含まれます、こういうものが研究対象ですから、研究活動そのものが広げたコミュニケーションの可能性はそう大きくないかもしれません。それでも、広範な読者を想定し出版するつもりで書いた文章、特定の相手にあてられた手紙、自分自身の想いを書き残した日記など、書き手と読者の組み合わせに応じて文体も語彙もさまざまです。研究を通じてそうした多様性に触れられたのはよかったと思います。

■ 外国語は大学での学習にどう関係しますか。

政治学でも経済学でも、私たちはまず日本語で書かれた概説書などを通じて初歩的な知識を身につけます。とくに、日本語はさまざまな学問を学ぶのにきわめてすぐれた言語で、かつて欧米の学問を日本に「輸入」した先人たちは、上手に漢字をつかってさまざまな学術語を造語しました。そのおかげで、私たちは日本語を使って学問的な知識の基礎を学ぶことができます。それでも、翻訳語というのは、ときに窮屈で、原語がもっている意味の広がりをカバーできていないことが多々あります。たとえば、「市民政府」という語があります。英語でいえば、Civil Government

です。皆さんは「市民政府」で何を想い浮かべるでしょうか。鍵は形容詞のCivilにあります。一度、Oxford English Dictionaryのような大きな辞書で、この単語を調べてみてください。たった5文字のこの単語が、歴史的にどれだけ多彩な意味を背負ってきているかがわかります。

■ 最後に読者へのメッセージをお願いします。

政策科学部は2014年から新しいカリキュラムを導入しました。新しい外国語学習が一つの焦点でした。外国語学習にかんしては二つ大きな変更点があります。

一つは英語学習です。政策科学部には「英語」という科目がありません。しかし、それはけっして政策科学部が英語学習を軽視しているということではありません。むしろ逆です。みなさんは、少なくとも6年間英語を勉強してきたはずです。国語でいえば、小学校の6年間にあたります。思い出してみてください。国語の勉強を重ねることで、みなさんは国語の教科書よりも、小説を読んだり、ノンフィクションの作品を楽しんだりしたくなったことでしょう。英語も同じです。基礎的な学習を終えた大学生ですから、英語学習用ではない文献を読んでみる、英語で学習の成果をエッセイにまとめてみる、調べたことを英語でプレゼンテーションしてみる、そろそろこういう英語の使い方をしてみようということです。政策科学の学習と英語を使うことを結び付けよう、これが今回の大きな変更点です。EPS(English for Policy Science)はそういう期待を込めた科目群です。

二つ目の変更点は、英語以外の言語の学習です。これまで、政策科学部ではドイツ語、フランス語、中国語を学ぶことができました。今回の変更で、選択語種を大幅に広げ、これら3語種に加えて、スペイン語、イタリア語、ロシア語、コリア語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語を提供します。とくに、アジア言語の豊富さは、外国語学部以外では特筆すべきものだと思います。大学生になって、知的にも成熟しつつある年齢のみなさんが新しい言語に挑戦することの意義はとても大きいと思います。グローバル化が進み、とくに「アジアの中の日本」が焦点化されつつある現在、卒業してから新しい言語の習得を求められる機会も少なくありません。そのときにしり込みしないタフな言語習得意欲を身に着けてほしい、それが政策科学部の願いです。

II. EPS科目 (English for Policy Science)

EPS科目 (English for Policy Science) について

政策科学部では外国語科目としての「英語を学ぶ」科目ではなく、政策科学にかかわる様々なトピックや研究方法を「英語で学ぶ」ためのEnglish for Policy Science (EPS) という科目群があります。高校までに学んだ英語を積極的に授業で活用することにより、政策科学にかかわる専門的な知識を英語で学ぶと同時に、英語の運用能力を高めることを目標としています。政策科学は人文科学・社会科学・自然科学を横断する学際的な学問分野ですが、政策科学の基本概念、基礎理論の多くはヨーロッパやアメリカの学術研究の成果に基づいています。このため、英語で学ぶことは、学問の基本的な筋道を理解する上で非常に役立ちます。また、昨今の政策課題・政策争点の国際化のため、英語で情報を収集し、分析し、理解するというプロセスが今まで以上に求められています。外国の政策事例を学んだり、また日本の政策研究を外国での政策実践に活かすためにも、英語で専門的な内容を学ぶことは必須です。このため、政策科学部では英語で専門分野を学ぶ科目群(EPS)を、専門科目の一部として位置づけているのです。

EPS科目は次の3つのタイプに分類されます。分類の基準は①学習素材の言語、②授業内アクティビティの言語、③成績評価対象(試験答案、報告書等の成果物)の言語が、それぞれ英語なのか日本語なのかによります(下表参照)。

	① 学習素材 の言語	② 授業内アクティビティ の言語	(報告等) 成績評価対象 試験答案、 報告等の成果物 の言語
Type A	英語	英語	英語
Type B	英語	日本語もしくは英語	日本語もしくは英語
Type C	日本語もしくは英語	日本語もしくは英語	英語

(1) Type A について

Type Aは上の3つの分類の基準(①②③)のすべてが英語です。教養的な内容を含む科目、調査法的な科目、専門科目など内容は多岐にわたりますが、授業そのものの使用言語が英語ですので、将来、英語圏等に留学を希望する学生にとっては、一種の疑似留学体験ができるチャンスです。一部の科目は留学生も受講しますので、クラス内で教員のみならず留学生とも異文化コミュニケーションを実践する場ともなります。

また、政策科学部にはCommunity and Regional Policy Studies(CRPS)という専攻があり、主に留学生が政策科学を英語で学んでいます。この留学生中心の授業にもみなさんは参加できます。これらの授業も「タイプA」としてカウントされることになります。留学生と一緒に英語で授業を受けるのは本当にハードです。単に英語力の問題だけでなく、授業中に活発に発言することが留学生には当然であり、コミュニケーションスタイル全体が日本的な授業とは異なるからです。しかし異文化の中で「少数派」になることによって、人は多くを学びます。これまで自分が当たり前にしてきた価値観が通用しなくなるため、自分の考え方や行動を根本的に見直さざるを得なくなるからです。英語圏に留学を希望している学生だけでなく、留学する予定のないみなさんも、ぜひタイプAの授業を受けて異文化体験をしてほしいと思います。

(2) Type Bについて

Type Bは上記の①~③のうち、①を英語とするものです。入門レベルから高度に専門的なものまで、政策科学の学習に必要な基本概念、理論、争点を概説する英語文献を講読する授業を行ないます。専門的な英語はきちんとした論理構造に基づいて書かれています。専門的な英語を学ぶことで、学問的な知識を深めるだけでなく、論理的かつ批判的に思考する能力も養うことを目標としています。また授業によっては、英語圏のドキュメンタリー映画などを利用して社会科学的な理論や論争点の背景を学んだり、またウェブサイトなどを利用してアカデミックな英語のリスニングを行ったりするものもあります。このように、タイプBではインプット(言語の受容)のベースが英語であることが共通しています。しかしながら、多くの授業では発表やレポートなどのアウトブット(表現活動)も英語を中心に進めることになっています。

(3) Type Cについて

Type Cは③を英語とし、PBL(Project-Based Learning)型の英語学習を行います。このタイプのコンセプトは"Learn to Contribute"です。学習の成果物を授業内成績評価の対象としてだけでなく、何らかの程度と意味における社会貢献に結びつけるプロジェクトとして授業が編成されます。プロジェクト例としては、Decoding Kyoto Project(木屋町商店街、銭湯、伏見の酒などの紹介)のように、英語化されていない京都の重要な情報を英語化するものや、立命館大学広報ビデオなど日本語の動画に、英語の字幕をつけるなどのプロジェクトがあります。みなさんも自分や先生のために学ぶ、高校までの英語を卒業して、英語力を活用して、自分以外の誰かの役に立つ作品を作ってみませんか。これまでの作品例については、以下のサイトを参考にして下さい。すべて、外国人の役に立つ情報になっています。

EPS: English for Policy Science

http://www.ritsumei.ac.jp/ps/education/curriculum2014/subject/eps.html/

ここまで、政策科学部新カリキュラムについて説明してきましたが、次ページでは、鐘ヶ江先生ご 自身の英語にまつわる経験や、海外の政策現場における英語の重要性についてお話を伺います。

英語編



鐘ヶ江秀彦先生

Hidehiko Kanegae

■専門分野:計画理論、文化遺産防災学 ゲーミング・シミュレーション

も読まされた覚えがあります。

■ 英語を使ってどのようなお仕事をされていましたか。

私自身の話をすると、1994年に博士号を取って、国際連合でいきなり働き始めました。それでも何とかなるものです。しかも学校で教わった英語は、米語でしかないことを国連で知りました。

国連の公用語は当初の戦勝国を中心に英語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語の五カ国語。国連公用語を形成する戦勝国とは、ドイツや日本、イタリアの枢軸国に対抗して結成された連合国(The United Nations)が第二次世界大戦に勝った事に由来します。なお、現在はアラビア語が加わり、国連公用語は六カ国となっていると聞き及んでいます。国連を標記する際には、United Nations(英語), Nations Unies(フランス語)、联合国(中国語)などを併記します。働き始めた当初の国連の文書には多言語で同じことが書いてあるフォームを何度

国連で働くというと誤解が多いが、一般の会社同様、国連には多種多様な職種があります。ガードマンや運転手、郵便仕分け配達業務から、タイピスト、秘書など、専門職よりも一般職の方が遥かに多いです。通訳や編集者、デザイナーに至るまで国連職員はいます。公式文書は六カ国語で記され、配布されても、多くの場合の業務会話、会議言語などは、ニューヨークの国連本部にあっても英語です。パリのユネスコでも英語で業務が進められます。

ところで、博士号取得前の追い込みの時期で不安だったので、博士号がとれない場合はどうなるかを国連の面接の際に聞くと、募集は途上国の地域開発計画の専門家であり、募集分野の実務経験歴十年以上か、博士号以上のみを専門家として採用するとの事。国連ではGS (General Secretary /一般職) とP (Professional) カテゴリーには厳然とした区別があり、GS→Pには、かなりハードな試験や面接が待ち構えています。国連で専門職として働きたいものには博士号取得を私なら勧めます。

しかし、国連も国際機関という官僚機構である以上、一度誕生した職種は世代交代まで消えにくいのです。たとえテクノロジーが変化しても、です。私が国連で働き始めた1994年当時、既にファックスもあり、大学でも現在のゼロックス型の乾式コピーを使っていたが、テレックスがあり、テレックスのキーパンチャーなる職種がありました。ナイロビの事務所にはタイピストを多く雇用していました。もちろん電動タイプライターでした。数年前までは機械式タイプライターであり、一度に5~6枚しか、同時に機械式タイプの圧力では文字が重ね打ちできなかったのだそうです。白いタイプ用紙と真黒のカーボン用紙(領収書等の裏に貼付けてあるのは今でも見かける)を交互に重ねて9枚、あるいは11枚を、一人のタイピストが打って、会議書類を作成していたのです。この黒いカーボン用紙の写しを「カーボンコピー」と呼ぶのです。Emailでよく使

われるccの語源は、このカーボンの写しを、宛先人だけではなく、関係者にも配布する事に由来 しています。30名の会議ともなると5名から6名のタイピストが、一斉に同じ文書を打っていた のです。これこそタイプする人、タイピストの由来です。

大学3年生の時には恩師のいる研究室に先輩にそそのかされて連れてこられて、調査票の入力だのいろいろな手伝い(アルバイト)をさせられました。それ以来、国連に出るまで同じ研究室にいました。結局、私を連れて来た先輩、研究室の牢名主になっていました。研究室には留学生達も多かったし、海外の大学の先生達の訪問や、シンポジウムやワークショップの度に駆り出されて、大学というところは国内と海外の区別をしないものだというのを自然に馴染んでいったように思います。

■ たくさんの留学生に英語で教えていらっしゃるそうですね。

毎年、政策科学研究科の修士の院生数名を英語でのゼミを通じて、議論し、指導し、審査しています。博士の留学生も議論し、指導し、審査します。当然ながら大学院の英語の授業もあり、英語による研修やワークショップ、インターン受け入れを年10件ほど、ここ5年は平均して70~80名ほどをG-COEに関わる研究センターで受け入れています。COEとは、センター・オブ・エクセレンスの訳であり、ある分野の学術の中心地、本山という意味です。その専門分野の人事交流や学術交流の世界の中での中心地を意味します。歴史都市防災研究センターは、ユネスコが世界で唯一認めた世界遺産の防災研究機関であり、世界で唯一の世界遺産防災の研修もユネスコと連携して毎年実施しています。インドネシアからも毎年25名の公務員達が政策・計画立案研修であったり、防災研修に繰り返し訪れています。タイやイタリア、インドネシアからも多くの専門家や学生をセンターにて短期受け入れています。私自身は、もちろん講義やフィールド指導ばかりでなく、調査研究・研修受け入れ者として相手国との交渉や契約といったマネジメントについても相手国政府、国連や大学と交渉にあたっています。

■ 国連で仕事を始めるまで英語をどのように学習していましたか。

ここまで聞くと、海外の留学歴があるかとも、あるいは帰国子女かとも思ったかもしれませんが、それまで留学した事もなければ、海外にも数回ほどしか行った事がありませんでした。英語教育を受けたのは中学校3年間、高等学校で3年間、大学で2年間、予備校の1年間も入れると、合計で9年間は英語の授業を受けました。約十年間は英語を日本国内だけで教わりました。

特に英語を母語としないアジアの人々と仕事をするとよくわかります。アジア諸国の官僚は英語を自在にとは言わないまでも英語を使って仕事をします。民間は英語を使ってビジネス交渉をします。文化交流や学生交流でも、英語を母語としない人々は英語でコミュニケーションを一生懸命取ろうとします。英語を使ってなにをするか。英語で自身の事や日本の事が説明できるだけではなく、何かを達成するために英語を用いるのであって、英語一色に染まる事等必要はありません。

私自身を振り返ると、学習という点で言えば、中学一年生以来、英語はずっと学習し続けていると言えます。何も参考書を読んだり、英語学校に通うばかりが英語ではありません。私に取っての一番の良い学習法は、英語を頭から外に出す事、アウトブットする事です。海外の学会で発表する。質問を聞いてその場で答える。間違った受け答えをしたり、反省したりといった、たくさん失敗して恥をかきつづける、の一言に尽きます。私も大学院生の頃は、毎晩大学の側の安い居酒屋で留学生とともに、延々と議論して、むちゃくちゃな英語を使って、たくさんの恥をかいて来たのです。

推薦図書

Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches $[^{\circ}-\mathcal{N}-\mathcal{N}^{\circ}-\mathcal{N}^{\circ}]$ 出版社: Sage Publications, Inc; Third版(2008/7/23)

II. グローバル言語科目 (LGA=Languages for Global Actions)

LGA科目(Languages for Global Actions)について

政策科学部では2014年度入学生より、英語に加えて、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、中国語、コリア語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語から1つ選んで学習するグローバル言語科目(LGA)のカリキュラムが始まります。これは、2015年度に移転する新キャンパスでの学びにふさわしい新しい外国語の学び方を提供するものです。

グローバル化する現在、英語はとても大切です。しかし、英語だけでは現代の政策課題を考えることはできません。複数の文化における経験を持ち、複数言語でコミュニケーションが行える運用能力と、異文化間交流に参加できる能力を身につけることは有益です。政策科学部は、国際的なコミュニティ・エクスチェンジ型学習と多言語学習の経験を通じて、世界的な展開を開始するに足るバイタリティを獲得することができると考えます。政策科学部の英語学習科目であるEPS (English for Policy Science) 科目とあわせて、英語以外の外国語の教育・学習を通じて、複言語主義 (Plurilingualism) をすすめることが重要です。

複言語主義とは、EUで採用されている言語の考え方です。これは多文化主義(Multiculturalism)のように、一つの国や地域にさまざまな文化や言語が並立するという考え方とは異なり、みなさん一人一人のうちに、複数の言語が既に存在しているという概念です。たとえば多くのみなさんの母語(第一言語)は日本語です。みなさんは物心がつくころにはすでに日本語を話していたはずです。すなわち、みなさんの思考や行動の源には、日本語という言語の存在があるのです。遅くとも中学校では、初めての外国語として全員英語を学び始めます。みなさんの中には、英語が得意な人もそうでない人もいるでしょう。しかし、みなさんは全員英語の基本文法、語彙、音声について一定の知識を持っているはずです。そして、街にあふれている英語の表記、外国人との会話やニュースの音声を聞き、「これはこういう意味だ」とか「あまり聞き取れないな」などと感想を持ちます。これは、母語である日本語だけでなく、英語がみなさんの体の一部になっていることを意味します。もちろん、母語と比べると外国語は不自由です。ですが、日本語だけしか知らない状態では見えないこと、気づかないことが、外国語(英語)を知ることで、皆さんの意識に上ってくるのです。複言語主義はいわば「足し算」の考え方です。複数の言語を知ることにより、複数の世界を知り、人々や文化についてさらに豊かに知る——これが複言語主義の立場です。

複言語主義のもう一つのポイントは、その言語を使って「何ができるか」ということです。母語の場合は意識されることは少ないでしょうが、英語の場合これまでみなさんは学校の成績や各種試験のスコアで自分の英語力を測ってきたと思います。もちろん、これらの客観的指標で自分の実力を知ることは重要です。しかし、言語は本来コミュニケーションが目的です。成績やスコアではなく、実際に外国語を使って何かが「できる」という体験は非常に重要です。政策科学部では、英語のみならず、大学で新たに学ぶグローバル言語科目においても、そのような「できる」

感覚を大切にします。

グローバル言語科目は、一般に第二外国語科目あるいは初修外国語科目と呼ばれているものに相当します。多くの入学者は、中学・高校で英語を学習していますので、英語以外の語種から構成されるLGA科目は、学生が大学入学後に学習を開始する外国語学習科目ということになります。本学部で、第二外国語もしくは初修外国語をグローバル言語科目と呼ぶのには理由があります。政策科学部では開設以来、学生の海外調査実習を重視してきています。調査フィールドは欧州、北米のほか、東アジア、東南アジアの諸国に広がっています。多くの学生は第二学年の演習クラスで海外調査実習に参加しますが、グローバル言語科目はそうした海外調査実習のスケジュールにあわせた学習を可能にし、実際に現地で使ってみることを念頭に、外国語学習の動機づけを明確にする目的で開講されます。

第一学年後期開講の「LGA入門」では、10の外国語全てについて、専門家が各語種と政策課題についての説明を行います。10語種すべての説明を聞いた後、政策実践研究プロジェクトの開講フィールドや自分の研究関心にあわせて語種の選択をしてください。言語そのものやその言語にかかわる文化に関心があるので、その語種を選ぶというのはとてもよいことです。他方、政策科学部では、少し発想の転換をしてみてもよいのではないでしょうか。世界では現在もさまざまな問題が起こっています。その問題をさらによく知るために、日本語だけでは不十分です。すでに身に着けている英語の基礎力を活用しつつ、その言語を知らなくてはアクセスできない情報に少しでも近づくために、語種選択を考えてみてもよいかもしれません。語種選択は学期が終了する1月頃を予定しています。その後第二学年時に、各語種の初級と準中級が、第三学年時には、選択で中級科目が開講されます。さらに世界に羽ばたきたい場合は、立命館大学や政策科学部が主催する各種交換留学プログラムに参加したり、これらの言語を話す留学生と交流したりして、さらに「できる」範囲を広げていってください。「足し算」と「できる」――これが政策科学部グローバル言語科目の目標とする複言語主義のチットーです。

1. ドイツ語編



小杉隆信先生 Takanobu Kosugi ■専門分野:地球環境政策学 技術評価論

■ 先生のご存知の範囲で、ドイツ語は今まで世界あるいは日本においてどのように用いられてきたと言えるでしょうか。

私は高校の頃から理系の勉強が好きで、大学でも理工系を専攻したんですけれど、よくドイツ人の名前が冠されている法則名などを目にしたものです。ケプラーの法則とか、リーマン幾何学とか、ハーバー・ボッシュ法(アンモニアの合成法)とかですね。また、江戸末期にオランダ商館医として来日したシーボルトも実はドイツ出身です。明治に入って日本では本格的にドイツ医学を取り入れることにしたので、一昔前まで、我が国では医学分野でドイツ語が多用されていました。一方、文系の方でしたら、カント、ニーチェ、ゲーテ、カール・マルクス、マックス・ヴェーバーなどがお馴染でしょう。

このように、イギリスやフランスと並んでドイツは近

代科学に貢献する研究者を輩出し、そして彼らは基本的にはその思考の著述を母国語で行いました。ですから、明治以降、西洋科学を学ぶために我が国の大学では英語だけでなくドイツ語ないしフランス語を習得することが当たり前だったのです。近年、学問の世界では英語が席巻するに至ったかにみえますが、確かに自然科学の分野ではそういえると思いますけれど、社会科学では事情はそう簡単ではありません。学術雑誌の多くは英語で発行されているには違いないのですが、ドイツ語やフランス語の雑誌もそれなりのシェアを保っています(下図を参照)。社会科学分野の思考では抽象的な概念を表す語の利用が多くなりがちで、他言語に何とか訳そうとしてもニュアンスが正確に伝わり難い場合がしばしばあるのです。

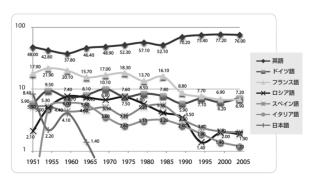


図 社会科学学術雑誌に占める主要言語での刊行数のシェア(パーセント) (出典: UNESCO World Social Science Report 2010)

■ ドイツにおいて、先生の専門に関係のあるところではどんな政策実践が進んでいますか。

私の専門の環境やエネルギーの分野において、近年、ドイツはお手本といえるような政策実践が行われてきました。国(連邦)レベルでは、包装廃棄物規制令(1991年)によるリサイクルの推進、再生可能エネルギー法(2000年)に基づく再生可能エネルギー固定価格買取開始による自然エネルギーの大規模普及などが挙げられます。また、是非の議論はあると思いますが、東日本震災後に早速、ドイツ国内の原発を2022年までに順次停止する脱原発法を定めたのが記憶に新しいですね。

地域や民間レベルでも多くの取り組みがされています。1992年にドイツの「環境首都」に選ばれたフライブルク市ではLRTを代表とする公共交通網を充実させ、また自転車を利用しやすいような工夫も行うことで、利便性を損なわないように自動車利用の削減を実



現しています。こうした取り組みはドイツ国内の他の地域にも広まっています。

また、これは公共政策というよりむしろ民間での実践なのですが、ドイツでは自然環境に関す

る教育が盛んです。2011年度の研究入門フォーラムでの現地調査では「森の幼稚園」と呼ばれる幼稚園の一つを訪問したんですが、本当に森の中にあるんですよ。環境のことを教科書を用いて学ぶのではなくて、幼少期の情操教育の一環として日々自然に触れ合うことで、潜在意識として自然環境の大切さを植え付けることができるという考え方ですね。このほかにも、小中学生が校外で自然環境について学ぶための施設が各地に設置されています。



■ 2011年度に学生さんとドイツに行かれたとのことですけれど、政策実践研究プロジェクトではドイツ語は必要でしょうか。

絶対に必要だとは言いませんけれど…。2011年度の場合は環境政策をテーマとして調査研究を行ったのですが、ドイツ語が分からないと不便なことが多かったです。何を研究するにしても、まずは文献調査が大切で、最近ではインターネットを使って色々な基礎資料を収集することが多いと思うのですが、英語しか読めない場合には欲しい情報をみつけるのが難しいです。大学や公共機関では英語での情報もそれなりに提供していますが、やはりドイツ語で発信されている情報量が圧倒的に多いですし、企業やNPO、あるいは個人のウェブページに至っては、ドイツ語が分からなければ何が何だか分からない、ということが多いですよ。

現地調査の時にもドイツ語が使えると使えないとでは全然違います。我々がインタビュー相手として選ぶ学校の先生、ビジネスパーソンなどは英語がよくできて、アメリカ人より分かりやすいくらいの英語で話してくださるのですが、それでも時に、英語では何というのかよく分からない、という言葉(特に専門用語)に突き当たってしまうようです。また、我々からすれば十分に英語がお得意に思えても、ご本人としては英語で話すことに自信がなく、できるだけ母国語であるドイツ語でお願いしたいという場合が多いようです。我々がインタビューされる立場になることを想像すればよく分かりますよね。2011年に調査に行った時にも、アポイントメントを取るときに、いくつかのインタビュー先から「ドイツ語の通訳の方も一緒に来て下さると有難いのですが」と言われましたし、実際、インタビューでは主に英語を使ったとはいえ、同行していただいた山根先生(2012年3月まで本学部ドイツ語教員)にかなり助けていただきました。また、2011年のドイツ・プロジェクトでは学生が現地で街頭アンケートも実施したんですけど、調査票はもちろんドイツ語で作成しました。一般の方々は普段あまり英語を読み書きする機会がないですからね。

■ ありがとうございました。

推薦図書

- ・今泉みね子『ここが違う、ドイツの環境政策』白水社、2003年
- ・村上敦『フライブルクのまちづくり一ソーシャル・エコロジー住宅地ヴォーバン』学芸出版社、 2007年
- ・『エクセレントドイツ「IDEE」(もっと知りたいドイツ)』シルバーストーンJP、2008年 (Vol.1) ~2010年(Vol.3)

2. フランス語編



■ フランス語は世界でどのように用いられていまか?

多くの国際機関では、英語だけではなく、フランス語も公用語とされています。日常レベルでも、ヨーロッパでは、イタリア、スペイン、ポルトガルの人にとっては英語よりもフランス語の方が話しやすいため、ヨーロッパの人同士がフランス語で会話することも多いです。ヨーロッパの学生は、自国語、英語に加えてフランス語かドイツ語を話せることが当たり前になっています。

また植民地時代の名残でアフリカには、フランス語が通 じる国が多いです。モロッコを旅行した際には、フランス 語を喋る日本人は珍しいので各地で大歓迎されました。

■ フランス語は他の言語と比べてどのような特徴がありますか?

フランス語は、世界の言語の中で最も言語規則がはっきりしている言語です。その理由は、民族としてのフランス人が話していた言葉をフランス語にしたのではなく、さまざまな民族が国の中にいることを前提に統一されたフランス語を皆が話す、書くことによってフランス国民を創り出そうとしたからです。

絶対王政期やフランス革命期に国家集権が進んだ時期に、アカデミーフランセーズという学識者の協会によって正しいフランス語の規則が示されました。その後も現在に至るまで、どのような言語の用法が正しいのか、について詳細な決定をこの協会は行っています。

地方でも公教育を担う教員は、方言を話すことが明確に禁止されていました。正しいフランス 語を話せるのがフランス人であって、フランス人という民族が存在するわけではありません。一 にして不可分のフランスの統一性は、統一されたフランス語規則を強力に遵守させることで実現 されたわけです。

ゆえに文法規則は、明確であり、文章を書く場面でも、いかに明晰に論理を展開するかが、重 視されます。

最初は、文法規則の修得に時間がかかるかもしれませんが、一度、規則を理解すれば、不規則な事象が多い英語と比較すれば、会話や文章の読解・表現を大きく前進させることができます。

■ フランス語を学ぶことは政策研究でどのような意味がありますか?

政策科学を深めるには、社会科学系の学問をしっかり勉強することが不可欠です。フランスの 社会科学は、人文主義的な伝統が強く、文学、哲学、史学と深く関連した社会科学こそが高く評価されています。現在でもフランスの社会学、社会経済学、法律学は、世界でもトップレベルで す。フランス語を通じてフランスの社会科学の豊かなテキストを読むことができれば、政策の学びを実学的に狭い範囲で理解せずに、人文主義に根ざした社会科学の中で豊かに展開できる力をつけることができます。

また内容面に関して言えば、フランスは、市場に対する社会規制の力が強く、社会正義が重視されていますので、労働政策、家族政策、農業政策、都市政策などの分野において大いに学ぶべき内容があります。自由放任の伝統から市場メカニズムの発揮を重視する英米の国の仕組を学ぶだけではなく、規制による正義の実現を重視するヨーロッパの国の仕組を是非勉強して欲しいと思います。

さらに言えば、現在、フランスの政策を理解するには、フランスのことだけを見るのではなく、EUとの関連で見ていくことが大事になっています。社会経済面に関わる政策は、今ではEUから先に提起され、加盟国に降りていくことが多くなっています。EUの政策形成過程や政策実施過程を研究していく場合、どこか準拠国を持っておくと良いのですが、フランスは、EUの中心国でもあり、かつEUの指令とフランス内の規制内容とは対立することも多いため、EU研究を行う上でもフランス研究は、面白いと思います。

■ フランス・プロジェクトではどのようなことを学べますか?

持続可能な都市づくりというテーマを立て、パリとリヨンで、①まちなみ保全地区における住宅の再生と流通、②都市住民の生活の質を高めるための時間政策、という二つのサブテーマの研究をこの間、行っています。

美しいまちなみが都市計画の厳しい規制によって実現していることは、日本ではよく知られています。 築年数200年という集合住宅もパリやリヨンには沢山あります。 しかし、このような旧

い住宅が、どのような手法で再生し、 価値ある中古住宅として流通している のか、については、日本ではあまり知 られていません。

時間政策というのも新しい政策です。これまで都市は、空間として捉えられていましたが、生活者の視点に立つと、どのような時間を各自が持つことが出来るか、が重要になってきます。そこで時間の質という観点からあらゆる都市政策を再評価するという動きがフランスではあります。これも日本で研究している人はいない分野です。



■ これからフランス語を学ぼうとする学生にメッセージをお願いします。

コミュニケーションの道具として 言語を学ぶのではなく、言語の規則 や各単語の意味や語源の中に豊かな 歴史社会が潜んでいますので、それ を探求するつもりで知的に言語を学 んで欲しいです。そういう中で身に つけられる教養は、時間が立っても 劣化しないものとなるでしょう。以 下の図書は、そのような教養に基づ く社会科学の模範です。



推薦図書

樋口陽一『自由と国家』岩波新書、1989年 樋口陽一『ふらんす 一知の日常をあるく』平凡社、2008年

3. スペイン語編

浦川 紘子先生

Hiroko Urakawa

■専門分野:国際法・EU法

■ 今までスペイン語が世界でどのように用いられてきたか を、先生のご関心・ご専門の立場からお聞かせください。

私は、国際法とEU法を専門としています。特に、グロ

ーバルアクターとしての国際機構の役割や可能性に大変関心を持っています。国際関係を研究対象とする以上、外国語の習得は欠かせません。大学院進学後に、「日墨交流計画」留学生としてメキシコへ留学し、スペイン語の勉強に励みました。

スペイン及び中南米の国々で広く使われているスペイン語は、国際連合、EU、米州機構、そして中南米の様々な地域機構において、公用語としての役割を担ってきました。

今日、世界中に多くの国際機構が存在する中、中南米における国際機構の発展は著しく、これまで自身の研究対象としてきたEUとの比較の観点からも、中南米の国際機構の動向に注目しています。ただしその場合、スペイン語版資料しか見つからないということもあり、中南米の研究を進めるにあたっては、スペイン語の知識が有用となります。たとえば、南米6か国で構成される「メルコスール(Mercado Común del Sur, MERCOSUR)」という国際機構の公用語は、スペイン語とポルトガル語です。スペイン語であれば、設立条約をはじめ、多くの文書にアクセスできます。

■ 海外の「政策現場」において、スペイン語を用いてどのような研究や政策実践が進んでいるかについて教えてください。

中南米の国際機構は、近年、協力の枠組みを超えて、より広い意味での統合を目指しているところに、その特徴があるように思われます。従来、国際機構においては、主権の制限を伴わない国家間協力を前提としており、EUのみが統合という概念の下、超国家的性質を有する機構として存在してきました。EUは、ECの時代から、加盟国に対して拘束力ある法規範を制定し、これをEU法(EC法)という独自のカテゴリーで捉えてきました。こうした統合の形態が、他の国際機構でどこまで確立しうるかということが、私の問題関心の1つです。

たとえば、上述のメルコスールでは、その主要機関である「共通市場理事会(Consejo del Mercado Común)」が発する「決定(Decisiones)」、「共通市場グループ(Grupo Mercado Común)」が発する「決議(Resoluciones)」、「通商委員会(Comisión de Comercio)」が発する「指令(Directivas)」は、いずれも加盟国に対して拘束力を有しています(Ouro Preto議定書第9・15・20条)。こうした規範が蓄積されることによって、今後どのような政策が展開されていくのか大変注目されます。また、中米8ヵ国から構成される「中米統合システム(Sistema de la Integración Centroamericana)」は、その機構名自体に「統合(Integración)」という言葉が含まれる、1991年に創設された機構です。この機構には、「中米司法裁判所(Corte Centroamericana de Justicia)」(1995年創設)という裁判所が存在します。国連の「国際司法裁判所」、EUの「EU司法裁判所」、そして、中米司法裁判所、それぞれの司法機関としての意義や役割もまた、探求したい課題です。

さらに、日本と中南米諸国との二国間関係に目を向けると、日本はメキシコ、チリ、ペルーと 経済連携協定(EPA)を締結しており、さらにコロンビアとも締結交渉中です(外務省ウェブサ イト参照:http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/fta/index.html)。これらのスペイン語を主要な言語とする国々との、今後の経済関係など、問題関心は尽きません。

■ これからスペイン語を学ぼうとする学生にメッセージをお願いします。

留学を通じて、メキシコの文化や歴史に触れることができ、貴重な経験となりました。慣れない土地で苦労し、現地で出会った人々の温かさに接し、それらは今の私の大きな力となっています。スペイン語で書かれた音楽や文学に、翻訳を介さず直接触れることで、スペイン語ならではの豊かな表現を味わう新たな楽しみも増えました。私はスペイン語に出会えて、本当によかったと思います。

推薦図書

中村道『国際機構法の研究』(東信堂、2009) 国本伊代・中川文雄(編著)『ラテンアメリカ研究への招待』(新評論、1997)

推薦ウェブサイト

国際連合 http://www.un.org/ EU http://europa.eu/

メルコスール http://www.mercosur.int/

4. イタリア語編

Paola Rizzi 先生

■ Please mention how Italian has been used in the world so far from the view point of your interest and specialty.

Apart from the territory of Italy, Italian language is spoken by some historical minorities in other countries, like in Istria (region in Croatia). In Switzerland it is one of the four national languages.

The richness of cultural and historical heritage of Italian cannot be fully appreciated if not though the knowledge of the language. An important part of that cultural heritage are ancient cities and their works of art, just to start from archaeological heritage, and Italian landscape. This is the field of such disciplines like urban planning, landscape planning and territory planning. In the recent years, however, Italian territory has been subjected to a kind of planning which was often inattentive, uncoordinated and senseless and lead to its slow degradation. Landscape and urban planning is striving to overcome this degradation, also through forms of conservation and sustainable development.

Not only is Italy famous in the world for its treasures of art and architecture but also for fashion and design. The center of fashion is Milan while Venice, Rome and Florence are particularly related to art and culture. But there is also an Italy of small and medium towns, not as famous on the international level, but equally rich in treasures and findings. We should not forget also about the heritage related to food, wine and natural, organic agriculture. Natural products have always been promoted though local, annual events which offer to visitors the possibility to experience their quality and delicious taste. Every town that has its own agricultural or culinary tradition organises a festival. And at the festival there is everything, from goose with truffles to artichokes with pecorino cheese.

In the recent years these areas were the main part of new activities and policies related to the development of "slow" - a new approach Slow Food, which sees food with broader perspective. Food is considered as a product which results from the application of policies on raw materials and therefore the ways of production, transformation and commercialization. New concepts of the relationship between the consumer and producer are pointed out, striving for the protection of biodiversity and offering a new concept of quality. Not only the features of the product are taken into consideration, but also environment, knowledge of the territory and, in particular, local community. Attentive and sensible policies may offer new horizons to local communities. This way it is in fact possible to preserve cultural and social heritage, which otherwise would be lost in the process of globalization.

Italy is a land of small towns and villages scattered in a landscape which is incredibly diversified - from the north to the south, from the mainland to the islands. In this context Sardinia, for instance, is an extremely interesting case study. It is the biggest island in the Mediterranean Sea, and even though industrial development undermined the sites of great interest, its high environmental quality and the richness of its

archeological and historical heritage, along with its agricultural products make it a region which enables the realization of projects of sustainable development - from slow food and organic farming to participation practices.

Because of its unique landscape, in the years right after the World War II luxury tourism started to develop, which lead to abandonment of many traditional activities, which till that moment resisted industrialization. The years of the so called economic boom have seen an indiscriminate urbanization of coastal areas of high landscape value. But these activities, even though profitable, were concentrated in the summer months of July and August. In the region of Barbagia, a rather poor area, an event called Autumn in Barbagia, have been organised for a few years. Cortes Apertas. 27 municipalities alternate from September to December in a course offered to the tourists and residents. The program requires that each locality opens all the houses and courtyards offering the guest not only typical local products, but also disclose the techniques of their production, the quality of the raw materials and renew the local culture which otherwise would be lost.

This initiative allowed to construct a network in the territory, which allows to extend the tourist season on one side and realization of a production process, in which the consumers are participants and not a passive figures, on the other. At the same time they are involved in preservation of a territory which is in danger related to demographic decline and it promotes sustainable life styles which have more respect to the territory and ecology.



5. ロシア語編



■専門分野:国際政治・国際公共 政策・安全保障政策

Noboru Mivawaki

1 美しいロシア語

ロシア語は、美しい発音をもつ言葉です。文字の形も 美しさを帯びています。もし「美言語」の世界コンテス トがあったとして、優勝候補に残るのはロシア語です。 そう確信しています。

ロシア語は、ロシアだけでなく旧ソ連地域の多くの地域で通用します。その地理的範囲は、東はシベリア、サハリン、カムチャッカ半島、西はサンクトペテルブルク、南は中央アジア、北は北極海沿岸に及びます。気候でいえば、日本より寒い地域だけではなく、日本より暑い地域でも用いられています。ロシアという世界一の面積をもつ国の言葉は、隣国日本にとって重要な言葉です。

ロシア語というとキリル文字です。ローマン・アルファベットとは異なります。しかし文字は簡単です。1週間毎日書けば、すぐに覚えられます。しかもローマン・アルファベットと似ているところも少なくありません。そ

の理由は、英語からロシア語にいたるまで欧州の文字(アルファベット)の源が単一であるためです。

キリル文字といっても、ロシア語のアルファベットと、ベラルーシ語、ウクライナ語、セルビア語、ブルガリア語とでは少しずつ異なります。モンゴル語は、ロシア語と全く異なりますが、ソ連との関係が深かったため、現在でもキリル文字を併用しています。これは、現代のインドネシアやベトナムでローマン・アルファベットを用いているのと同様です。モルドバでは二つの文字を併用しています。また同じロシア語でもロシア革命前と革命後とでは文字が異なります。

2 世界を知り将来を考えるために必要なロシア語

ロシアは欧州かアジアかという歴史的論争があります。この論争にみられるように、ロシアは 欧州の国でもありアジアの国でもあります。別の言葉でいえばユーラシアの国です。

欧州は、大まかに分けて3つか4つに分けられます。北海に面するイギリス、ドイツ、デンマーク、地中海に面するフランス、イタリア、スペイン、ギリシャ、そして海へのアクセスがあまりよくない諸国のうち、スイス、オーストリア、ハンガリーといった国々、さらに東の方に位置するロシア、ウクライナ、中央アジア、等です。1つの国をみて欧州を知っているとは決して言えません。家のつくり、町のつくり、国のつくりが違います。気候も違いますし宗教も異なります。例えば、ロシアのキリスト教は、カトリックでもプロテスタントでもなく、主にロシア正教です。

ロシア語の世界的重要性は、歴史的にはロシア革命の成功に起因します。以前は「第2の国際語」と言われたこともありました。社会主義の時代を終え、ロシアは、資本主義への道を歩むパイオニア国家として注目されました。中国との接近、石油やガスを中心としたエネルギー外交、新興国市場としてのビジネス、芸術・文化・スポーツにおける世界的なリード、これらを研究するに

はロシア語は不可欠です。

日本との関わりでも、日露戦争、北方領土問題、エネルギー問題、北東アジアの安全保障、環日本海経済圏といった政策構想や政策課題を深く考えるには、ロシア語のニュースや論文を読む ことが必要になってきます。

3 幅広いジャンルで必要なロシア語

アジアや欧州の安全保障を考える上でロシアの戦略を知ることは重要です。また日本に近いサ ハリンや沿海州との関係も将来はきっと改善されるでしょう。日本海を通じた巨大な経済圏を誕 生させるにはどうすればよいのでしょうか。

意外かもしれませんが、実は日本とロシアは共通する政策課題を有しています。それを発見するのが政策実践研究プロジェクト(研究入門フォーラム)です。その答えは自分で探してください。ともかく、違いを知るだけでは比較研究になりません。

4 メッセージ

私は大学でロシア語を3年間学びました。しかし決して優等生ではありませんでした。難しい文法を覚えるのがたいへんだったのです。格変化が6つあり、性は3つあります。ここまでは大丈夫でした。ところが、英語でいう分詞構文のようなものが多いことでつまずきました。美しい言語には、美に比例する数のトゲがあったということです。

しかしこの苦難の経験により、大学院進学後に学んだフランス語、ドイツ語の心理的ハードルは、かなり下がりました(むろん、フランス語もドイツ語も特有の美しさと難しさを秘めていますが)。

5 推薦図書・ウェブサイト

図書

岩下明裕『北方領土問題―4でも0でも、2でもなく』、中公新書 下斗米伸夫・島田博 共編『現代ロシアを知るための60章』(第2版)、明石書店 米原 万里『ロシアは今日も荒れ模様』、講談社

ウェブサイト

http://www.kremlin.ru/ (ロシア大統領府)

http://www.russia-emb.jp/japanese/ (駐日ロシア大使館)

6. 中国語編



楊 秋麗先生 Yang Qiuli

■専門分野:経営学

■ 今まで中国語が世界でどのように用いられてきたか を、先生のご関心・ご専門の立場からお聞かせください。

1980年代後半、日本企業は中国大連への直接投資 (FDI) を皮切りに、その投資範囲を中国全土に広げ、投資規模を拡大し続けてきました。2012年に、中国に進出している日本企業の支店、駐在出張所数は1,361社で、日本企業の出資会社数 (100%出資会社と一部出資の合弁会社を合わせて) は23,506社でした (外務省領事局政策課『海外在留邦人数調査統計』(平成24年版)、2013年、57ページ)。2012年までに日本対中国の直接投資 (FDI) 額は134億7,900万ドル (国際収支ベース、前年比6.6%増)で、日本対外直接投資額の11%を占めました (ジェトロ『ジェトロ世界貿易投資報告2013年版』、2013年、130ページの表13)。特に近

年、世界金融危機による欧米市場の縮小、および少子高齢化による日本国内市場縮小の対策として、日本は中国を重要な「工場」としてだけでなく、中国を有望な「市場」として開拓していく動きが顕著にみられています。現在、中国は日本にとって、米国に次ぐ消費財輸出市場です。2012年に、輸出量が伸びていた商品は、アップライトピアノ、楽器用の部品、釣りざおなどの教養・娯楽商品、小売用洗剤、ヘアケア商品などの日用品から家庭用冷蔵庫、デジタル式腕時計など多岐にわたります。これは中国の消費の多様化、高度化が進み、より高機能、高付加価値の製品を求める消費者が増えているためと考えられます(ジェトロ『ジェトロ世界貿易投資報告2013年版』2013年、22ページ)。世界人口(約73億2,478万人・2015年予測)の約19%(国際連合経済社会情報・政策分析局人口部編/原書房編集部訳『国際連合・世界人口予測1960-2060・2012年改訂版・第「分冊[世界人口年鑑・別巻]』2013年、3、277ページ)を占める魅力のある巨大かつ多様な中国市場を開拓するために、現地化の推進、中国市場における消費者ニーズの把握、投資・販売政策に対する正しい理解などに、中国語によるコミュニケーション能力が要求されます。

■ 海外の「政策現場」において、中国語を用いてどのような研究や政策実践が進んでいるかについて教えてください。

中国市場の急速な拡大に伴い、過剰競争、資源枯渇、格差拡大、環境破壊など、様々な課題が浮上しています。中国特定プロジェクトは中国東北部にある遼寧省の大連市と瀋陽市を調査し、2010年度は「中国の内需拡大と日系企業の課題」について、現地の日系企業、中国国有企業、民営企業に対するフィールド調査を通じて、日系企業と中国企業、特に国有企業との熾烈な競争実態を明かにしました。2011年度は「中国水不足の背景と現状」について、地方政府機関、供



2010年度三菱重工叉車(大連)有限公司見学 (2010年8月30日企業関係者撮影)



2011年度大連市自来水集団有限公司見学 (2011年9月6日企業関係者撮影)

水企業、用水企業(日系と中国民営の食品企業)に対するフィールド調査を通じて、地方政府間の水資源争奪の実態、河川整備の真相、給水システムの実態、日中企業間水資源保護意識の相違などの問題発見ができました。2012年度は「中国市場における日本企業の現地ブランド構築」について、資生堂の事例を取りあげ、企業訪問、市場調査を通じて、資生堂のそれまでハイエンド市場向けのオリジナルブランドに加えて、ミドルエンド市場開拓の有効手段として、中国市場向けの現地ブランド構築の実態を明らかにしました。2013年度は「日本製造業企業の中国から撤退しない要因」を解明するために、家電製造企業、家電量販店を中心に現地調査し、政策、市場、企業の側面からその要因究明を試みていました。

実際、以上の4つのテーマに限らず、設定した中国東北部という研究対象地域は中国の「過去」と「現在」およびその発展軌跡を同時に観察することができる地域です。この地域は中国建国当初において、いち早く重化学工業基地として建設され、中国経済を牽引してきたものの、1970年代末に始まった「改革開放」政策以降、他の地域に比べて立ち遅れが生じており、現在「旧工業基地の振興」は大きな発展課題となっています。その意味で、この地域に関わる研究テーマの



2012年度大連マイカルの化粧品売場で市場調査 (2012年9月6日藤井禎介先生撮影)



2013年度大連東芝電視有限公司見学 (2013年9月6日企業関係者撮影)

具体的な内容については実に様々な広がりと可能性があります。研究テーマとして、①「中国東北地方における地域(経済)活性化と地方政府の役割」、②「中国国有企業の組織改革(コーポレート・ガバナンス)」、③「中国東北地方の人材育成における大学等機関の役割」、④「中国企業における社会的責任の可能性」、⑤「地方政府政策における現状と課題」、⑥「東北振興戦略(旧工業基地振興政策)における地方政府の役割」、⑦「東北地方における産官学連携の現状と課題」、⑧「外資誘致政策と日系企業の経営活動」などが考えられます。

この他、現地では、政策科学部学生と現地大学生との間における積極的な交流の場として、討論会・意見交換会が開催され、多言語による異文化間でのコミュニケーションを通じて、政策的な視野や世界観を広げることを実践しています。

■ 政策実践研究プロジェクトでは、どのようなことを学べるか、教えてください。その際に中国語がどのように必要になってくるかもお聞かせください。

2012年度の中国特定プロジェクトが所属する研究入門フォーラム「組織経営」クラスの年間スケジュールをみると、以下のようになっています。

4月6日-5月25日、「第1段階の先行研究レビュー(広く資料収集、読み込み)による仮研究テーマの設定」→5月26日-6月22日、「第2段階の先行研究レビュー(焦点を絞り、深く読み込み)による研究テーマの決定→6月23日-7月20日、「論文構成の決定・夏期以降の研究計画の作成」→7月21日-9月4日、「フィールド調査の調査票の作成・修正」→9月5日-10月5日、「フィールド調査の実施・成果のまとめ」(同時に、夏休みの宿題として、先行研究をまとめ、9月28日に提出)→10月6日-10月26日、「研究テーマの確定」→10月27日-11月23日、「中間発表の準備」→11月24日-1月21日、「論文の作成」。

中国特定プロジェクトの参加学生は以上の研究・調査活動の中で、もちろん他の参加学生と同じように、研究する能力を身につけるが、同時に、中国語の「聞く、話す、読む、書く」(中国語では、「聴、説、読、写」)という4つのスキルを知らず知らずのうちに、身に着けることができます。

読む能力: 一年間の中国語先行研究のレビュー、現地調査で入手した中国語資料の整理と日本語 への翻訳は中国語を読む能力が要求されます。

書く能力:中国語先行研究の取りまとめ、中国語の現地調査質問票の作成、現地訪問先への中国語による礼状の作成は中国語を書く能力が要求されます。

聞く能力:現地訪問先での聞き取り調査の際、もちろん引率先生の通訳の手助けがいるが、少なくとも語感を覚え、耳慣らしになる。また、現地大学生と交流する際、同世代の生き生きとした中国語が自然と耳に入ってきます。

話す能力:現地企業での中国語による質問は難しいが、現地の大学生と交流する際に、リラック スした中国語でのコミュニケーションが期待されます。

■ これから中国語を学ぼうとする学生にメッセージをお願いします。

学生の皆さんの中国語学習は私の日本語学習と同じで、私自身の経験から、外国語能力を身に着けるためには、「必要という環境」と「コミュニケーションをとろうという勇気」、この2つの条件が重要です。中国特定プロジェクトは皆さんに「必要という環境」を与えています。皆さんもぜひ「コミュニケーションをとろうという勇気」をもって、中国語授業で中国語の基礎を固め、そこで得た中国語能力を中国特定プロジェクトで試し、向上させてください。

推薦図書

①『中華人民共和国外資企業法·中華人民共和国中外合作経営企業法·中華人民共和国中外合資経営企業法』中国法制出版社、2001年。

推薦理由:左右ページに中国語原文と英語対訳があるので、中国語の学習と同時に、その内容 も理解できるようになる。

② 袁芳遠編著『成功之道』北京大学出版社、2007年。

推薦理由:中国有名大学の経営学部(中国語では、管理学院)で実際に外国人教育に利用される教材で、中国に進出している有名な外国企業や代表的な中国企業のケース・スタディーとなっている。ケース自体がよく知られている企業が多く、そのうえ、各ケースの後ろに英訳があり、理解を深めやすい。

③ 田中仁編著『原点で読む20世紀中国政治史』白帝社、2005年

推薦理由:中国語原文、その日本語訳と解説があるので、特に中国語を初めて学習する学生に とっては、良い勉強になる。

ウェブサイト

① 人民網 http://www.people.com.cn/

推薦理由:多分野にわたって、豊富な情報を閲覧できる。

② 経済参考 http://jjckb.xinhuanet.com/

推薦理由:中国の『経済新聞報』の記事を随時にチェックできる。

③ 中国経済新論 http://www.rieti.go.jp/users/china-tr/jp/index.htm

推薦理由:日本にいる中国人研究者が主催するサイトで、中国経済ニュースを日中対訳で読む ことができる。

7. コリア語編



■専門分野:公共政策・政策過程論・

政治文化論

■ 今までコリア語が世界でどのように用いられてきたかを、先生のご関心・ご専門の立場からお聞かせください。

世界の中でのコリア語は、10位内の実用言語として国連で選定されています。また、韓国の電子・自動車等の産業は世界の5位にある貿易国で、今後も人・もの・金が韓国を媒介にして大きな動きをしていくと考えられます。最近、タイやベトナムへ研究のリサーチに行くことが多いのですが、日本のJICAに似たKOICAの活動など、東南アジアでの韓国の存在感には目をみはるものがあり、コリア語の需要は韓国内にとどまることなくますます高まるでしょう。その韓国は、表1や図1の日本と韓国の相互の訪問者数が示すように、日本に一番近い近隣国です。このような近隣の国が互いに支え合いながら世界で活動していくためには、コリア語を習得して韓国の実際への

理解を深めると同時に、日本の実情をコリア語で伝えられれば、日本の持続的な社会の可能性を 考えるトでも役立ちます。

表1 2012年の上位5位の 訪日外国人客数

順位	国	訪日外客数
1	韓国	2、042、775人
2	台湾	1、465、753人
3	中国	1、425、100人
4	アメリカ	716、709人
5	豪州	206、404人

出典: 日本政府観光局(JNTO) (http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_d ata/visitor_trends/pdf/tourists_2012_np.pdfアクセス: 2013年10月1日)

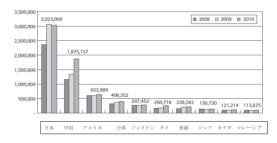


図1 上位10位の訪韓外国人客数(2008年~2010年) 出典:韓国観光公社『2010年韓国観光統計』、9頁より。

■ 海外の「政策現場」において、コリア語を用いてどのような研究や政策実践が進んでいるかについて教えてください。

韓国社会は、少子高齢化、地域格差の是正のための地域振興、地域分権など、日本と似通った 課題を抱えています。行政過程や政策過程の分野では、皆さんが思っている以上に、日本と韓国 は密接な連携を持っています。日本の多くの自治体は、他の国の自治体と姉妹都市を結び、地域 外交も踏まえて地域社会の繁栄を模索しており、表2が示すように、日本は韓国と行政での活発 な交流を通じて、互いの政策発展を図ろうとしています。

日本と韓国の政治学会や行政学会なども、互いに共同研究のシンポジウムを開催し、学問的な

表2 姉妹都市提携の状況(2012年2月1日現在)

広域ブロック	自治体数			構成比
	韓国	韓国以外	合計	韓国(%)
北海道	7	109	116	6.0
東北圏	11	212	223	4.9
首都圏	23	321	344	6.7
北陸圏	8	66	74	10.8
中部圏	7	201	208	3.4
近畿圏	20	248	268	7.5
中国圏	29	109	138	21.0
四国圏	2	56	58	3.4
九州圏	32	135	167	19.2
沖縄県	0	18	18	O.O
総計	139	1476	1615	8.6

出典) 国土交通省『日韓における越境連携の推進に関する検討調査』(平成24年3月)、11頁より。

つながりも深いです。最近、政策科学研究科は、韓国ソウル大学行政大学院と交流協定を締結し、 学術的交流をさらに深めようとしています。そこから政策実践につながる研究成果が期待でき、 そのためにもコリア語を学ぶ学生も加わって研究活動を進めていけるようになることを願ってい ます。このような研究環境の中で、互の地方政府がどのような政策を進めているかに注目し、コ リア語の資料に直接にあたることは、自国の社会システムをより深く理解し、両国の社会の発展 を考えるためにも重要でしょう。

■ 政策実践研究プロジェクトでは、どのようなことを学べるか、教えてください。その際にコリア語がどのように必要になってくるかもお聞かせください。

政策実践入門プロジェクトでは公共政策系、環境開発系、社会マネジメント系の三つの柱を中心に、政策課題の事例研究やその前提になる政策分析の理論を深く学び、自ら研究を進めていくことになります。どの系の政策課題を研究するにも、実社会の動きをより正確につかむことが不可欠です。日本と同様に、国による情報へのアクセスの制限が少ない今日の韓国では、コリア語ができれば、具体的な情報をWebを通じて多く得ることができます。コリア語の情報へのアクセスが容易であるからこそ、研究の広がりが一段と増します。また、コリア語ができることは、海外でのリサーチなど現場の社会に入って正確な知識を得るのに役立ちます。比較的安全で自由なリサーチも可能な韓国で、実際には英語が通じないことも多いので、リサーチでのコリア語の有用性はきわめて高いです。そこでは、読み書きと同時に会話力も求められます。

推薦図書

趙昌鉉(阪堂博之/阪堂千津子訳)『現代韓国の地方自治』法政大学出版局、2007年 テリー・ニコルス・クラーク、小林良彰編著(三浦まり訳)『地方自治の国際比較ー台頭する新 しい政治文化』慶應義塾大学出版会、2001年

大西裕編『選挙管理の政治学-日本の選挙管理と「韓国モデル」の比較研究』有斐閣、2013年

ウェブサイト

韓国学術情報 http://kiss.kstudy.com/ 韓国国会図書館 http://www.nanet.go.kr/ 韓国統計庁 http://www.kostat.go.kr/



8. インドネシア語編



東 Yoshifumi Azuma

■専門分野:国際開発学・東南アジア地域研究(特に勤務地であったインドネシアカンボジアと東チモール)・平和研究・人口学

■ 今までインドネシア語が世界でどのように用いられて きたかを、先生のご関心・ご専門の立場からお聞かせく ださい。

「まだインドネシアが『蘭領インド(Nederland Indie)と呼ばていた』86年前の10月28日、第2回青年会議に集まった青年らが『一つの国家、一つの民族、一つの言語』をうたう『青年の誓い』を宣誓した。オランダ、日本の植民地支配を経て、民族も言葉も異なる多民族が一つの国家として独立する原点となった。そのことからこの言語は『政策的に使用を推進された人工言語』といえる。」

1 元々は域内交易の共通語

「今日の共通語『インドネシア語』は青年の誓いの宣誓 文の中に歴史上初めて登場する。バタビア(現在のジャカルタ)市内に集まった独立運動家がマレー半島やスマトラ島などを中心にリンガ・フランカ(交易語)として使用されていたムラユ語を元にインドネシア語を新たに

創り出し、共通語として使用することを誓った。」

2 ジャワ語対ムラユ語

「しかし、『青年の誓い』の宣誓内容を巡る議論には曲折があった。1926年に開かれた第1回 青年会議で『一つの民族、一つの国家』を目指すことまでは決定したが、言語を巡って意見が対立した。会議出席者の多数派を占めたジャワ出身者がジャワ語を共通語にするよう求めたのに対し、スマトラ島出身者はムラユ語の共通語化を主張し、第1回会議は議論が膠着したまま閉会した。」しかし2年後、一転してインドネシア語を共通語とする結論が出たのである。 それはジャワ語が4つの言い方をする階級性の強い言語であることから履修が困難であり、文字もタイプライターに打てないサンスクリット系の文字であったことも原因である。それよりもジャワ語を支配者の言語として強制するよりは、ムラユ語を域内に普及させて共通言語とした方が独立闘争を進めやすいといったスカルノ・ハッタの『政策』があったのである。

3 言葉の力

戦後、独立し多くの国家分裂の危機を乗り越えてきたのは「『一つの国家、一つの民族、一つの言語』をうたう青年の誓いの甘い余韻ではなく、主に軍部の強力な統制力であったが政策的に決定された人工言語『インドネシア語』の貢献が大きかった事も否定できない。特に98年のスパルト失脚後のバルカン化の危機を何とか乗り越えたのは弱体化した軍の統制力ではなく、すでに

地方語よりもインドネシア語を使う世代が多数であり、コミュニケーションが容易にとれる言葉の力の要素もある。このようにインドネシア語はバラバラな人々を一つに何とか結びつけた人工語なのである。同時に発展途上の言語であり、元々交易語であったため概念的な単語は多くを外来語から取っている。この言語を習得することにより、インドネシア全域、マレーシア、ブルネイと3億人近い人々とコミュニケーションが取れ、すでに東南アジアのリンガ・フランカの地位を確立しつつある。

引用文献

『ジャカルタ新聞』2013年10月28日

9. ベトナム語編



仲上健一先生 Kenichi Nakagami

■専門分野:環境経済・政策・ 水資源・環境政策 ■ 今までベトナム語が世界でどのように用いられてきたかを、先生のご関心・ご専門の立場からお聞かせください。

ベトナムに行って驚くのは、なんと懐かしい日本の雰囲気が残っていることです。そして、ベトナム語は日本語・朝鮮語などと同様に中国語と漢字文化の強い影響を受け、非常に親しみやすい言語です。工場に視察に行ったとき、「整理整頓」が日本の言葉でなくベトナム語として使われていたのには感心しました。ベトナム語の方言は、北部方言、中部方言、南部方言の三つに大別され、それぞれハノイ、フエ、ホーチミン市を標準とします。したがって、語学留学先が違ったら、また少し異なったベトナム語になるということも、おもしろいことです。ベトナムでは、「カラオケ」が盛んになりましたが、老若

男女みなうまいのです。その理由は、ベトナム語には、6つの声調があるので、話言葉そのものが音楽なのです。その点、日本語は平たい言語であまり歌が上手でない理由が納得できます。ところが、ベトナム語の発音は世界で一番難しい言語と言われています。発音やイントネーションが変わると意味が違ったりしますので、ベトナム語は独学では習得が難しいと言われています。ベトナム大好きな日本人が、なかなかベトナム語をマスターできない理由はこんなところにあります。

政策科学部では、2014年度からベトナム語が開講されます。みなさんは、なんと幸せなことでしょう。

■ 海外の「政策現場」において、ベトナム語を用いてどのような研究や政策実践が進んでいるかについて教えてください。

メコン川の最下流に位置するベトナムは経済発展著しく、ドイモイ政策導入後25年の今日に至っても堅調です。さらに2025年まで経済成長を堅持し工業化、都市化が推進されようとしています。メコン川流域開発がさらにベトナムの経済成長に拍車をかけるでしょう。一方で、とりわけ経済発展の進む南部メコンデルタ地域は、地球温暖化にともなう気候変動の直接的影響を受ける脆弱な低平地域のため、気候変動による海面上昇に伴う海水浸入により、農業や漁業の維持が困難になり、なおかつ住み慣れた土地を離れることを余儀なくされるという問題が想定されます。ベトナムの経済発展と環境保全の課題は今後ますます重要になるでしょう。ベトナム政府や大学そして企業においても、また日常的な市民の会話ではベトナム語が使われています。政府や企業への訪問やインタビューでも、ベトナム語で行われます。それは、ベトナムにおいては海外留学が一部のエリートに限定されていたため、ほとんどの人は、ベトナム語を中心として仕事を

しています。昔留学した人は、フランス語、それから次の世代はロシア語・中国語をマスターしました。そしてやっと今の留学した人は英語となっています。環境問題や水問題の資料を収集するときも、概要的な資料は英語もありますが、ほとんどがベトナム語で書かれています。私の場合は、英語、ときには日本語のできるベトナムの研究者に同行してもらって調査をせざるをえませんでした。もちろん、一人で調査に出かけても、簡単に資料を手に入れることはできませ



写真 1 ベトナム国家大学ハノイ校経済学部での意見交換

ん。ベトナムに関心のある皆さんは、是非ベトナム語をマスターしてください。

■ 政策研究実践プロジェクトでは、どのようなことを学べるか、教えてください。その際にベトナム語がどのように必要になってくるかもお聞かせください。

2013年度の研究入門フォーラム(政策実践研究プロジェクト)では、ベトナムに2週間行きました。研究入門フォーラムの調査の主な目的は、①日本のマスメディアや書籍、インターネットで流されている情報が、どの程度、現地の実情を反映しているのかを確認すること、②現地銀行ならびに銀行の融資先となる企業等への聴き取り調査から、ベトナムの金融システムの現状をより詳細に把握すること、③受講生が考えているベトナムへの金融システムの今後の課題や提言についてベトナム人と意見交換をすることでした。ハノイでは、ベトナム国家大学ハノイ校経済学部の教員や学生と意見交換を行い、ベトナムや日本の金融システムについて意見交換が行われました。立命館大学ハノイ校友会との交流会では、現地で働いているOBやスペシャルゲストとし



写真2 ハノイ郊外に位置する縫製工場の視察

て参加した日系金融機関に務めている日本人から見たベトナム経済やベトナム人の国民性について議論しました。またジェトロ・ハノイ事務所を訪問し、日系企業によるベトナム進出に関わる情報を中心に聴き取りを行いました。さらにハノイ郊外の現地銀行、現地企業や日系企業向上を視察し、原材料の調達や資金の入手手段など銀行と企業に関わる現地の事情について積極的な質疑応答が行われました。(政策科学部のホームページより)

報告や質疑応答はベトナム語ではな

- く、英語でしたが、ベトナム語で会話ができればもっと親しくなれたことでしょう。
- これからベトナム語を学ぼうとする学生にメッセージをお願いします。

ベトナム語は、難しい言語であることは確かです。立命館アジア太平洋大学では、開学(2000年)からベトナム語を教えています。多くの学生が熱心に学んでいます。またそのおかけで、ベトナムの学生とも親しくなっています。言葉は相手を尊敬し理解するための第一歩です。これから輝かしい未来の国であるベトナム語を学ぶことは、あなた自身の未来をも拓くでしょう。

推薦図書

古田元夫、『ベトナムの現在』、講談社現代新書、1996年

坪井善明、『ヴェトナム新時代』、岩波新書、2008年

田原洋樹、『ベトナム語のしくみ』、白水社、2005年

田原洋樹、『ベトナム語表現とことんトレーニング』、白水社、2013年



写真3 現地銀行支店長への聴き取り調査

10.タイ語編



Yusuke Toyoda
■専門分野:防災まちづくり

■ 今までタイ語が世界でどのように用いられてきたか を、先生のご関心・ご専門の立場からお聞かせください。

タイ語はタイ以外で使われる事はまずありません。また、現地でもタイ人の共同研究者とは英語で会話をします。だからといってタイ語を全く話さなくても良いかというと、そういう訳にはいきません。特に私の場合、タイを含めた地域コミュニティの防災について研究をしており、地域住民へインタビューをする機会が多々あります。タイでの調査では、私はタイ語がほとんど話せないため、タイ英通訳をつけますが、タイ語を全く話せないため、タイ英通訳をつけますが、タイ語を全く話せない「よそ者」に対する対応と、多少タイ語が話せる外国人への対応は異なります。間違っていても頑張って話してみると向こうも歓迎してくれます。特にタイは「ほほえみの国」と言われるように打ち解けやすい面がありますの

で、調査では聞いてはいないけど重要な情報を教えてくれるなど調査の結果にも反映されます。 このように現場における調査では、この打ち解けやすさが重要になってきます。聞きたい事は通 訳で事が足りるのは事実ですが、やはり「よそ者」に対する警戒心を解くためにも、タイ語は調 査をすすめる上で必要なスキルです。

■ 海外の「政策現場」において、タイ語を用いてどのような研究や政策実践が進んでいるかについて教えてください。

記憶に新しいと思いますが2011年に発生したタイの大洪水は日本企業に大きな影響を与えました。それだけでなく、日本ではあまり報道されませんが、洪水に関わる様々な対立が起こり、



写真 1 アユタヤにおける小学生への調査の様子

洪水被害を拡大させたと言われています。例えば、洪水による浸水被害を受けている地域の住民が、すぐ隣にある土嚢で守られて洪水被害を受けていない地域との差に憤り、自分の地域の洪水浸水高を少しでも軽減しようとその土嚢を壊して洪水被災地域が拡大してしまった事例はいくつも報告されています。また、行政への住民の不信なども課題として挙げられています。このような事態を避けるためにも主体間の洪水リスクに関するコミュニケーションが重要です。これは日



写真2 洪水対策のために設置された土堤防

本についても言える事ですが、全体的な 洪水被害を食い止めようとする行政と自 分の命や財産を守りたい住民たちが議論 しても結論は出てきません。どのような 対策や保障が必要なのかを意思決定する ための手段を開発する事や、意思決定の 機会を提供する事が大切です。当然の事 ながら住民や行政は英語ではなくタイ語 を話しますので、意思疎通を促進するた めの研究には必ずタイ語、もしくはタイ 人研究者との共同調査が必要になりま す。

■ 政策実践研究プロジェクトでは、どのようなことを学べるか、教えてください。その際にタイ語がどのように必要になってくるかもお聞かせください。

政策科学部にはタイ・プロジェクトがありますが、現地でも学生との交流や調査の基本は英語を利用する事になります。テーマは学生の関心によって異なりますが、急速な経済成長を成し遂げたタイ、特に首都のバンコクには高級マンションのすぐ近くに低所得者層居住地域(いわゆるスラム街)があり、その生活改善が喫緊の課題です。また、気候変動により、ますます増加すると言われている洪水への対策も重要な課題になっています。このようなテーマを中心に、日本にいる間に日英文の文献調査を行い、疑問やそれに対する仮の答えである仮説を立てます。そして現地ではタイ人研究者によるタイ英通訳を通して、行政へのインタビューや住民へのアンケートを実施し、仮説の検証を行います。現地では日本での調査や想像していた問題や状況とは異なる事実としばしば出会う事になると思います。ここでは特に政策科学部で重視されている現場の大切さを実感してほしいと思います。

現地では基本的に英語を利用しますが、すでに述べたように現地調査でタイ語が少しでも話せるかどうかが調査結果に大きく影響してきます。必要ないからといって勉強しないのではなく、 挨拶や、調査を手伝ってくれるタイ人学生や住民へのお礼ぐらいはタイ語で話す必要があるでしょう。

■ これからタイ語を学ぼうとする学生にメッセージをお願いします。

自戒の念を込めて言うと、言語というのは伝えるための道具である事を常に頭に入れておく事です。特に政策で学ぶ学生は通訳や翻訳家になるわけではないと思うので、あくまで伝える内容が重要です。タイ語をマスターする事を目的としてしまうと、学修の途中でつまずいた時に学びのモチベーションを保つ事ができません。特にタイ文字は独特で、最初は記号のようにみえます

し、文字と発音の組み合わせも大変複雑です。また発音には声調があり、タイ人と同じように発音しているようでも全く通じない事がよくあり、会話を萎縮してしまう事がよくあります。私も何度も挫折しました。ただ、繰り返しになりますがタイ語を学修するのはあくまで「何か」を伝えたいからです。特にタイ人は親しみやすい国民性がありますので、「元気?(Sabaay Dee Mai)」の一言でも現地の言葉で尋ねると相手も受け入れてくれます。目的はあくまで「何か」を伝えるという事を忘れないようにしてください。それはスキンシップを図るために簡単な挨拶を交わす事や研究内容を伝える事でも良いです。そうすれば学習の途中でつまずいても、完璧である必要はない、と割り切って継続する事ができます。もちろん完璧にマスターするに越した事はないですが、それはより正確に伝えるためのステップであるという事を忘れないで下さい。

推薦図書・ウェブサイト

- ・末廣昭著『タイ:開発と民主主義』岩波新書、1993:少し古い文献ですが、タイの民主化な ど、タイ人と接する上で知っておくべきタイ政治の背景を学べます。
- ・綾部恒雄/林行夫著『タイを知るための60章』明石書店、2003:タイについて知るための基本書です。2003年に出版されたので、最新情報は以下のウェブサイトなどで常に新しい情報を得ていく必要があります。
- ・Bangker Quote(http://bangkerquote.com/)タイの重要なニュースなどを日本語で読むことができます
- ・Bangkok Post(英字新聞社)(http://www.bangkokpost.com/):タイにおける課題などを英語で知ることができるます



写真3 洪水被災後の修復中のアユタヤ世界文化遺産



第1部では、政策科学部における外国語の学習と研究について述べてきました。第2部では、本学部でとりわけ重視している外国語ライティング(英語)について具体的に述べていきます。 I では皆さんのライティングを支援するライティング・ヘルプデスク制度について説明しています。 II には書く前の注意、II には実際に書く際の手引きを載せてあります。 この順にしっかり読み進め、書かれていることを忠実に実行すると、外国語でよいタイトルとアブストラクトが書けるはずです。さあ、実際に書いてみましょう。

政策科学部では、皆さんの学習や研究の成果について、外国語によるアブストラクト (abstract=概要) の提出を求めています。詳しくは、Ⅱの各章で述べられていますが、ここでは ごく簡単に、なぜ外国語によるアブストラクトが求められるのかにふれておきましょう。

皆さんは、中学校・高等学校の教育を通じて、外国語(ほとんどは英語だと思いますが)の学習を続けてきました。文法を学び、読解力を養い、作文の練習をし、リスニングの勉強に励んできたことと思います。「外国語を」勉強してきたわけです。大学は、そうした学習の成果を活かして、「外国語で」学ぶところでもあります。

政策科学の基礎となる社会諸科学は、いずれも欧米由来の輸入学問です。欧米の言語をもとに 彫琢されてきたさまざまな専門用語を、主として「翻訳語」を使いながら、私たちは勉強するこ とになります。政治学でも法学でも、経済学でも経営学でも、その基礎的な考え方をしっかり学 ぶためには、どうしても「外国語で」政治や法律、経済や経営、環境や都市を学ぶ必要がありま す。

それだけではありません。政策科学の学習や研究の素材となるのは、具体的な政策課題です。そうした政策課題は、どれも世界の共通課題となっているものがほとんどです。たとえば、環境問題。大気汚染、水質汚染、廃棄物の処理、有害物質の使用禁止など、どの国・地域でも問題になっています。それぞれの国や地域の現況を知り、諸外国の先進的な事例と解決策を学ぶことがとても重要です。政策科学は問題解決指向の学問と言われます。諸外国の政策文書や資料を、誰かが日本語に翻訳してくれるまで待っていていいのでしょうか。国境を越えて広がる政策課題について学びたい、知りたい…そういう意欲が強ければ強いほど、「外国語で」学ぶことの意義がわかってくるはずです。

さらにもうひとつ。学習や研究の成果を、日本語以外の言語に置き換えてみる作業は、一種の自己検証の効果をもちます。日本語は、なんとなく単語をつなげると意味がわかってしまう魅力をもっています。たとえば「環境共生都市計画」。「環境」と「共生」と「都市」と「計画」をつなげただけですが、意味はわかります。しかし、外国語の多くは統語法がしっかりしており、主述の関係、行為・目的の関係などを示す明確なルールがあります。このルールにそって、自分の考え方や学習・研究の成果を表現してみることで、その論理構造を自覚することができるのです。

そして最後に、こうした「外国語で」学び、「外国語で」表現する学びを重ねることで、自分の 学習・研究成果を、広く世界中の人々に発信できるかもしれません。外国語の知識やスキルは、 私たちの経験や視野を大きく広げてくれます。中学校・高等学校までは、いわば助走期間です。 その助走期間を経て、思いっきり世界へ跳躍するための学びの場が大学なのです。

I. ライティング・チューターを活用しよう

政策科学部では、2006年度からライティング・ヘルプデスク制度を発足させました。皆さんは、言語教育科目で外国語を学びますが、それに加えてプロジェクト入門、政策実践研究プロジェクト、政策構想演習の学習成果を外国語で表現しなければなりません。ライティング・ヘルプデスク制度は、外国語のタイトルを作成したり、外国語のアブストラクトを書く課題にとりくむ皆さんの学習をサポートするためにつくられました。さまざまな研究に取り組んでいる先生方や大学院生がきっと皆さんの疑問に答えてくれるでしょう。

ヘルプデスクで相談する際に気をつけなければならないことがあります。さまざまな政策課題について考え、学ぶのは皆さん自身です。まず、自分自身で学びと研究の針路をしっかりと自覚することが必要です。ヘルプデスクは、ときに学びや研究の悩みに応えてくれるかもしれませんが、まずは皆さん自身がしっかりと何を学び、研究したいのかをヘルプデスクに伝えられなければなりません。

次に、ヘルプデスクは、翻訳係ではありません。タイトルやアブストラクトの書き方は、この 冊子で詳しく説明されています。まず、それを熟読して、自分で書いてみる、そしてわからない ところは自分で辞書を引くなりして調べてみる。そして、自信のないところについて、「自分はこう表現してみたけれども、これで大丈夫か」…こういう相談でなければなりません。よく言われることですが、具体的な質問をするためには、具体的な学習の積み重ねがなければなりません。何も勉強していない人は、何も質問できません。漠然とした質問しかできない人は、自分自身の勉強が足りないということです。

ヘルプデスクの開室日時や場所についてはその都度掲示しますので、計画的にヘルプデスクを 利用してください。

Ⅱ. さあ、書いてみよう!研究レポートのタイトルとアブストラクト

ヘルプデスクへ駆け込む前に

前項でヘルプデスクで助言を求める前に、自分で準備すべきことがあると書きました。このセクションでは、実際に提出された外国語のアブストラクトに見られた問題点をあげて、執筆に当たって注意すべきことをまとめておきます。

外国語のタイトルとアブストラクトの執筆要項(Ⅲ.1)に詳しいのですが、そもそも外国語で自分のいいたいことを表現するための基本ポイントを以下に書いておきます。英語を例にとっていますが、初修外国語でも多くの場合共通項があります。

- ✓ 辞書を上手に使いましょう。自分のいいたいことを英語でどう表現すればよいかまったく わからない場合は、最初は和英辞書を引いてもかまいません。しかし、そこで見つかった 単語を必ず英和または英英辞書で例文とともに確認しましょう。日本語では一致している ように見えても、英語では意味がずれていることがあるからです。
- ✓ スペルチェックをしてください。皆さんの多くが使用するマイクロソフト社のワードには スペルチェック機能がついています。誤っているところは赤字で表示されますので、再度 検討をしてください。ただし、この辞書はアメリカ式の綴り字法によっており、網羅的な 辞書ではないので、絶対的な基準にはなりません。また、綴りの異なる別の単語があれば、 スペルチェックしてくれません。たとえばlawと書くべきところをlowと書いても赤字には なりません。スペルチェック機能はあくまで目安として、自分で必ず確認してください。
- ✓ 文法を確認しましょう。今年度提出の多くのアブストラクトに文法的な誤りが見られました。執筆要項に文法にかかわるチェックリストもありますから、提出前に自分でチェックしてください。ただし、文法の力がないと、自分でチェックできませんから、文法を復習しましょう。文法の参考書についても執筆要項で紹介しています。

このような基礎的な努力を惜しまずに、丁寧に準備してヘルプデスクを訪れると、より高度な助言がなされるはずです。結果としてよりレベルの高いアブストラクトを書くことにつながりますから、確実に行なってください。

2. タイトルとアブストラクトの書き方

では実際にタイトルとアブストラクトはどのように書けばよいのでしょうか。本学部・研究科では、1回生のリサーチ・プロポーザルと博士の学位請求論文に添付するもの以外は、共通の項目があります。2回生から研究科博士課程後期課程の大学院学生まで、年度末研究成果報告書および研究報告会(ワークショップ)にはアブストラクトの添付が必要です。詳細は担当教員に確認してください。具体的には次項の学生サンプルを参考にしてください。

3 実際に書いてみたら? これまでに提出されたタイトルとアブストラクト

次に、具体的なイメージを持ってもらうため、報告書・論文に添付された実際のタイトルとア ブストラクトから、皆さんの参考になるようなサンプルを三点あげてみましょう。

英語

まず、1回生です。プロジェクト入門では政策実践研究プロジェクト応募のための研究計画書 (リサーチ・プロポーザル) を執筆します。リサーチ・プロポーザルには外国語でタイトルと50 語程度の概要を書いてもらいます(2011年現在)。そのうちのサンブルの一つを紹介します。このサンブルは約150語もある長いものですが、1回生から少しでも長いものを書く努力をすることは悪いことではありません。また、この概要は自分が関心を持っていることを明快に表現しており、読者はこの研究内容を理解することが出来ます。

緑の回廊の有効性

The Effectiveness of Green Corridor

Taro Seisaku (学生証番号)

Abstract

Today, diversity of living things is being lost by the destruction of the environment. We human beings are making progress without paying attention to the environment in process of modernization. As a result, the exploitation in modernization brings the change to the ecosystem of forest. Diversity of living things is valuable itself, and various services which many living things including human beings depend upon are founded on the diversity. For that reason, if diversity of living things is lost, ecosystem including human beings will suffer from great damage. My study is based on the abovementioned. "Green Corridor" is connecting forests mutually not to isolate forests. This may be useful not only in protecting diversity of living things but in recovering the injured ecosystem. Human beings have to pay attention to the nature from now on. My study theme is "The Co-existence of human beings and nature."

次は2回生です。政策実践研究プロジェクトの年度末報告書には外国語のタイトルとアブストラクトを添付することになっています。このサンプルも少し長くて200語を超えていますが、どの様な調査をして何がわかったかが明快に書けています。

木屋町うおーかー ―外国人に優しい町に―

Kiyamachi Walkers: Friendly Town to Foreign Guests and Residents

Kenta Kinugasa, Taro Seisaku, Hanako Ritsumei (学生証番号)

Abstract

"Decoding Kyoto" is a project aiming to help foreigners overcome language barriers in Kyoto. A lot of foreign people come to Kyoto for sightseeing and live in Kyoto. However, there is limited information in foreign languages, so that they cannot enjoy staying in Kyoto enough. Then we regard these obstacles as a language barrier, try to remove it, and make Kyoto easier place to come for foreigners. We focused on Kiyamachi, one of the oldest entertainment districts in Kyoto. Aiming at attracting more foreigners, we decided to create a visitors' guide of Kiyamachi. By interviewing with foreigners and with shop owners in Kiyamachi, we gathered information of eating and drinking places and researched the history of Kiyamachi. And we published the guide titled "Kiyamachi Walker" in a booklet and on the Internet. According to the users' voice of the website, we succeeded in telling them charm of the Kiyamachi. However, this project is not easy to complete. First we had only a year for this project, so the problem is how to update information after April 2008. Second, cultural exclusiveness at Kiyamachi is the biggest challenge we faced. This problem cannot be solved easily but we could and should help removing it as university students in Kyoto. In conclusion, our goal is to overcome the cultural exclusiveness in Kyoto.

最後に学士論文のサンプルを紹介しましょう。このサンプルはちょうど150語程度で、やや口語的な部分がありますが簡潔に研究内容を示しています。2回生のサンプルでも示しましたが、2回生から大学院の博士課程後期課程の学生まで、在学生は全員このような形式でアブストラクトを提出することになります。上述した氏名などの情報も、このサンブルの書式に従って1ページにまとめて記入してください。

DCFによる企業価値評価

―株式会社松屋フーズと株式会社吉野家ホールディングス―

Evaluating a Firm's Value by Discounted Cash Flow: Matsuya Foods Inc. and Yoshinoya Holdings, Co.

Hanako Seisaku (学生証番号)

Abstract

For a financial manager, the most important object is to maximize the firm's value. However, it is difficult to figure out how much he or she could maximize the value. The thing which matters most is that she or he still has to evaluate the firm's value correctly when it has choices among M&A, reconstruction of a project, and so on. DCF, Discounted Cash Flow Method definitely helps her or his decision because it gives an answer which is an absolute value. Nevertheless, the absolute values may show close figures among them, but they have never been the same. This is because an answer DCF method finds out always matters how an analyst decides what amount of free cash flow a project has. In this study, firm's values of Matsuya Foods Inc. and Yoshinoya Holdings, Co. are disclosed by the DCF method using SWOT analysis.

LGA (Languages for Global Actions)

ここにはサンプルとしてあげませんが、今学んでいるLGAで自分の研究内容を書こうとする努力が見受けられました。今後はもっと多くの学生が、できれば自分の研究テーマにかかわる英語以外の外国語で概要やアブストラクトを執筆してほしいと願っています。

Ⅲ. これは使える!外国語ライティングの手引き

英語でレポート論文を書く際に、確認しておくべきことを三種の手引きとしてまとめました。一つ目はタイトルとアブストラクトの執筆要項で、政策科学部の皆さんが必ず熟知しておくべき事項を整理しました。タイトルとアブストラクトを書く際のチェックリストとライティングに役立つ文献・ウェブサイトリストも最後に載せています。二つ目は英文レポート執筆要項で、作文コンテストへの応募、英語クラスでのレポート作成、英語での卒業論文等の執筆の際に注意を払わなければならない書式について、日本語でまとめてあります。三つ目はその英語版です。英語の力をつけるためには、できるだけ英語版を使用してください。

皆さんが、これらの執筆要項を熟読して、内容・形式ともに学術的レベルの高いレポート・論 文を外国語で執筆することを願っています。

タイトルとアブストラクトの執筆要項「英語で書くタイトルとアブストラクト」

政策科学部では1回生のプロジェクト入門の年度末レポート(政策実践研究プロジェクトに向けての研究計画書)から4回生の学士論文・卒業制作にいたるまで外国語によるタイトル/アブストラクトを添付することが義務づけられています。また、政策科学研究科における修士論文・博士論文も同様です。外国語というともちろん英語だけではありませんが、最も皆さんになじみがあり、実際のタイトルやアブストラクトで多くを占めるのは英語です。ですからここでは英語で書く場合について説明しますが、このことは他の言語を排除することを意味しません。前項で示したように、これまで小集団科目の研究成果報告書や学士論文で実際に中国語、フランス語、ドイツ語のアブストラクトや概要も提出されています。せっかく学んでいるのですから、特に研究テーマに合致する場合は、ぜひ中国語で、フランス語で、ドイツ語で書いてみてください。その場合も、言語が違っても要点は同じですので以下のセクションを熟読した上で、当該言語の担当教員に相談してください。

(1) タイトル

■(1)-1 タイトルとはなにか?

タイトルは、その論文・レポートの内容を最も端的に表わすものです。自分の論文を読んでもらえるかどうかはタイトルにかかっているといっても過言ではありません。論文・レポートは担当教員に読まれるだけではありません。皆さんの研究テーマや論文のタイトルのうち政策科学部・研究科の公式ウェブサイトで全世界に公開されているものも少なくありませ

ん。魅力的な研究テーマや論文タイトルを正確な英語で世界に発信できれば、もしかしたら、 その研究に興味を持った留学生があなたのような研究をしたいと地球の裏側から政策科学部 にやってくるかもしれないのです。これほど極端な例はありえないとしても、**タイトルは常** に読者を想定して、必要な情報が読者に伝わるものでなければなりません。

この文章の末尾の文献リストに挙げた『Judy先生の英語科学論文の書き方』では、英語のライティングにおける4つの重要なポイントをPAILという略語で表わしています。タイトルのPAILは以下の図1のようにまとめられます。

4つのポイント	内 容
P=Purpose (目的)	自分の研究に読者を引きつける
A=Audience (読み手)	学術雑誌の目次やその他の検索方法で必要な論文を探している人
I=Information (情報)	研究の要約
L=Language (言語)	キーワードを含み、略語や専門的過ぎる語を使わないで、できるだけ短く

図1:タイトル作成のためのPAILとその目的

出典: 『Judy先生の英語科学論文の書き方』(2000) 講談社, p.60

自分の研究について文章を書く時には、A=Audience (読み手)を想定することが重要です。たとえば、レポートや卒業論文の場合は、指導教員やクラスメイト、大学院学生が書く学位論文や投稿論文の場合には、審査員 (研究者)が読むことを想定すればいいでしょう。キーワードは論文の本文での最重要語です。皆さんの英語タイトルはこれらの要素を満たすものでなければなりません。

■(1)-2 タイトルのつけ方

では、よいタイトルをつけるにはどうすればよいのでしょうか。皆さんの論文・レポートの本文はほとんどの場合日本語で書かれるはずです。ですから、日本語でタイトルをつけるときから上記のPAILを考えておく必要があります。

たとえば、政策科学部に提出された論文・レポートの実例を少し変更してみてみましょう。たとえば、「環境共生都市計画」というレポートの論題があるとします。日本語の表記としては、なんとなく意味がわかりますが、このままでは英語のタイトルになりません。Plan for an Environment-Friendly Cityくらいの表記が必要ですし、できれば、このレポートがどの都市を素材にしているのかを示す副題をつけるといいでしょう。たとえば、A Study of Kinugasa District in Kyotoという風に、フィールド調査をした地域名を具体的に示すと完璧です。副題はコロンで導きますので、"Plan for an Environment-Friendly City: A Study of Kinugasa District in Kyoto"になります(日本語の場合のような一や~は使いません)。こんな作業を通じて、自分が書こうとしているのがplanであること、そして環境共生都市を示す概念が何であるのか、そしてそのレポートは何を素材にしているのか一これらのことが明確になっていくはずです。さらに、このレポートのアブストラクトを英語で書くことで、自分が書いたものが論理的にどのような構成になっているのかがもっとよくわかる

はずです。

次にPAILに即して見てみましょう。このようなタイトルだと、環境に興味のある読者だけでなく京都に関心を持つ読者を引きつけることもできるかもしれません。また、担当教員のみならず、レポートを審査する各種研究奨励賞の選考委員にアピールすることも可能です。これでP(目的)とA(読者)のポイントは押さえられました。次はI(情報)ですが、このタイトルを読めば、環境に配慮のある都市の提案がなされること、その事例が京都であることがわかります。L(言語)に関しても必要なキーワード、plan、environment、Kyotoが含まれており、簡潔で英語的な表現が用いられています。これが、先に述べた「完璧」の理由です。後はこのタイトルにふさわしい本文が書けているかどうかにかかっています。

「環境共生都市計画」は曖昧ではあるが、それなりに簡潔なタイトルでしたから副題「一京都市衣笠地区を事例として」をつければ意味が明確になりました。しかし、日本語のタイトル自体に改良の余地があるものも見受けられます。たとえば「既存観光地活性化における複合集客施設による波及効果に関する研究―タヌキ市キツネ町のまちづくりとモグラ横丁のもたらす効果を中心に考察」はどうでしょうか。これは修士論文ですから、ある程度長くなるのもやむを得ないのですが、長すぎるだけではなく、内容も曖昧です。何の波及効果なのかわからないので、タヌキ市キツネ町やモグラ横丁に関心がある読者しか引きつけらないかもしれません。このような場合はまず日本語を明確にすることから始めなければなりません。波及する効果が経済的なもので、「モグラ横丁」が文化的特徴を持つ複合集客施設ならば、それをはっきり示しましょう。改善例としては「文化的複合集客施設『モグラ横丁』がタヌキ市キツネ町のまちづくりに与えた経済波及効果について」位にするとわかりやすくなります。この場合のキーワードは、タヌキ市キツネ町やモグラ横丁よりむしろ、文化・集客施設・経済波及などとなり、より多くの読み手の関心を集めることが出来るでしょう。

また元の英語のタイトル "A Study about an effect of sightseeing spot activity by compound pulling in customers institution: Mainly on the effect that tanuki city kitsunemachi and mogura yokocho" は文法的な誤りもあり、意味を成しません。ですから今度は明確になった日本語タイトルから英語に変えなければなりません。"Economical Effect of Mogura Yokocho, a Historical-Cultural Commercial Complex, on Kitsunemachi, Tanuki City"位になると具体的になります。L (言語) もキーワードを含み、簡潔になっています。

政策科学部らしい二つの例を出してみましたが、すでにお気づきのようにどちらのタイトルも名詞句になっています。疑問文を使うこともありえますが、このほうが鋭い表現になるので、名詞句で端的に言い切る努力をしてみてください。また、ここまで読んできて疑問がわいてきたかもしれません。タイトルをつけるときに先に日本語で考えるのではなく、まず英語で考えてみる方がよいのではないか。これは正しい推論です。英語でPAILに則ったタイトルを考えること自体が、先に示したように、タイトルで言うべきことを明確に論理的に構成する過程なのです。ですから、皆さんには本文が出来上がった時点で、それが日本語であれ、英語であれ、タイトルを英語で考えてみてほしいのです。単語を思いつかなければ、和

英辞書を引いてもかまいません。ただし、その単語の使い方が正しいかどうかは英英、英和、または活用辞典などで必ず確認してください。ライティングに役立つ辞書類は後に示してありますので参考にしてみてください。

(2) アブストラクト

■(2)-1 アブストラクトとはなにか?

アブストラクトは、タイトルに次いで読者の目に触れるものです。実際、タイトルに興味を引かれた人は、アブストラクトを読んでその論文の重要性を判断します。ですから、アブストラクトは、自分の研究の最も重要な情報を読者に伝えるものでなくてはなりません。読者に本文を読んでもらえるかどうかはアブストラクト次第だともいえます。

アブストラクトの長さは、博士の学位請求論文の場合は500語程度、それ以外の報告書・ 論文については150-250語程度が基準です。後者の短いアブストラクトの場合は、1パラグ ラフでまとめ、各章の内容を書く必要はありません。前者のやや長いアブストラクトの場合 には、複数のパラグラフで章ごとの内容を書いた方がよいでしょう。

タイトルと同様、アブストラクトでもPAILを意識して書くことが求められます。つまり本文を要約するだけではアブストラクトにはなりません。また語数が限られていますので、個々の文が最大限に情報を与えるように注意することも必要です。アブストラクトに関するPAILは以下の図2のようになります。

4つのポイント	内 容
P=Purpose (目的)	論文全体を読む気にさせるとともに、アブストラクトだけしか読まない人 にも必要な情報を伝える
A=Audience (読み手)	タイトルを見て興味を持った人および本文を読み進めるかどうか考慮中の人
I=Information(情報)	研究の背景 (abs1) — 普通一文で示し、省略されることもある目的 (abs2) — 研究で何をしようとしたか手法 (abs3) — 研究方法、前提となるモデル、仮説など結果 (abs4) — 主要な発見結論 (abs5) — 第一に伝えたい情報これらを含み、文献の引用や略語は含まない (最初に使用する際に説明する場合を除く)
L=Language (言語)	簡潔な表現を用い、動詞の時制に注意(自分の発見=過去形、一般的な情報や結論=現在形)

図2:アブストラクト作成のためのPAILとその目的

出典: 『Judy先生の英語科学論文の書き方」(2000) 講談社, p.67から要約

I (情報) に含まれるアブストラクトの基本構成にはこの他にもいくつかのパターンがあります。参考までに以下に挙げておきます。

<アブストラクトの基本構成>

1) 研究対象の背景

研究対象の課題・問題→研究課題の提示 (=研究の目的)研究の内容研究の成果・考察の結果 結論

2) 研究の目的

研究対象の背景・課題 研究の内容 研究の成果・考察の結果 結論

3) 研究対象の背景・課題

筆者の提案・仮説 研究の内容 研究の成果・考察の結果 結論

ただし、これらはあくまで構成要素です。150-250語程度の場合は、別項を立てるのではなく、1パラグラフで書くことが必要です。

■(2)-2 アブストラクトの書き方

ここでは政策を研究の題材とした二つのサンプルを紹介します。ともに学会誌に載せられた論文で、PAILに配慮したわかりやすいタイトルとアブストラクトです。テーマも政策科学部生にとって身近なものですから、二つのアブストラクトが明確で論理的に展開されていることを確認しながら、読んでみましょう(PAI)。使われている動詞にも注意して読むといいでしょう(L)。

よいアブストラクトを書くためには、PAILの中でも特にIを構成するabsを意識することが重要です。各センテンスにabsを振り、補足的な説明を加えてあります。サンプルと併せて参考にしてください。

それでは実際に例文を用いて説明しましょう。

Poverty, Race, and Antipoverty Policy before and after Hurricane Katrina

Although Hurricane Katrina generated a compassionate public response toward those affected, it did not lead to a serious discourse about the nature of poverty in America, nor did it lead policymakers to re-examine antipoverty policies. (abs1/abs2) In this paper, we present data on long-run trends in the economic status of African Americans and Whites. (abs3) We demonstrate that even though earnings are lower and poverty rates are higher for African Americans than for Whites, the economic experiences of poor Americans have been similar over the last three decades. (abs2) The period since the early 1970s has been an era of slow growth in median earnings for all workers and falling real earnings for less-educated men. (abs4) Although the economy has generated increasing economic hardship for less-educated workers, antipoverty policies have not taken up the slack. (abs4) If the United States had in place a more comprehensive safety net, the effects of Hurricane Katrina on the poor would have been smaller than they were. (abs4) We discuss a series of policies that address the broad poverty problem that persists. (abs4) However, since these safety net reforms are not likely to be implemented, we also propose a "disaster-assistance safety net" that could better serve the poor in the aftermath of any future natural or other disaster. (abs5) (207 words)

http://journals.cambridge.org/action/displayAbstract?fromPage=online&aid=462981

アブストラクトの冒頭から、この研究の背景には時事的な問題があることがわかります (abs1)。「ハリケーンの被害者に同情的な反応が集まったにもかかわらず、アメリカの貧困問題の本質が真剣に議論されたり、貧困撲滅政策が再検証されることはなかった」と述べ、読み手の関心をうまく誘いながら、研究目的も示唆しています (abs2)。アフリカ系アメリカ人と白人の経済データを用い (abs3)、両者の貧困率に差があることを議論の出発点として分析を進めています (abs2)。続く二つのセンテンスでは、過去30年間の経済状況の変化を分析した結果と、貧困層の経済問題が要約されています (abs4)。そして貧困撲滅政策の検証と自然災害との関連性へと議論が展開していきます (abs4)。結論にあたる最後のセンテンスでは、研究で得られた知見から政策提言をまとめ、結びとしています (abs5)。

NGOs in Environmental Networks in Germany and Japan: The Question of Power and Influence

The paper argues that differences between German and Japanese environmental politics during the 1990s are due to differences in the composition and working of the environmental policy-making networks in both countries. (abs2) The main assumption is that the relatively proactive role of German environmental politics can be explained by a highly integrated pluralistic network, which includes all major actors in the environmental field. (abs3) The paper explores this argument by focusing on the role NGOs play in the national environmental policymaking in Germany and Japan. (abs3) It presents empirical data concerning the position of NGOs in the policymaking networks in both countries with regard to NGOs' resources and opportunities to shape environmental policies. (abs4) The analysis of the data demonstrates that NGOs are still weak in the network in Japan while, in Germany, the big national NGOs are well integrated and are considered to play a significant role in the policy-making process. (abs4) This comparison suggests that what accounts for their greatest difference is the availability of means of compensating for weak resources, which is considered to be much more favorable in Germany than in Japan. (abs5) (181 words)

http://ssjj.oxfordjournals.org/cgi/content/abstract/8/1/103

このアブストラクトでは背景が省略され、研究課題を提示することから始まっています。「ドイツと日本の環境政策の違いは政策形成ネットワークの違いにある」と研究課題が明確に述べられているので(abs2)、この研究で何を議論したいかがよくわかります。背景が省略されていても、わかりにくくありません。続くセンテンスでは、上記の研究課題を明らかにするために具体的な研究仮説が提起され(abs3)、この仮説を論証するために「ドイツと日本のNGOの演じる役割に着目する」と研究手法が述べられています(abs3)。そして次の二つのセンテンスで、この比較研究の内容が簡潔にまとめられています(abs4)。結論にあたる最後のセンテンスでは、「最も大きな違い」という表現が用いられているので、筆者が一番伝えたい研究成果が何であるかが読み手によくわかります(abs5)。

このように、アブストラクトでは基本的な情報を1パラグラフで順序よく示すことが求められます。

■(2)-3 アブストラクトやレポートで有用な英文表現例

以下に英語のアブストラクトや本文でよく使う表現を挙げておきます。便宜上分類してリストアップしてありますが、必ずしも限定的な分類ではないので、状況に応じて参考にして下さい。

研究の目的	The purpose of this study is This paper examines This paper aims This study provides This paper deals with This paper attempts to
研究の内容	The author surveyed This study explores This paper provides This paper reviews This paper is an investigation of The author considers This paper treats The author tested/confirmed
研究の結果	The author discovered that This study reveals The results show The results indicated Several crucial elements are outlined The author found
考察	Results indicate that It is argued that
結論	The study concludes The author concludes that
提案・提言	The author suggests that The paper presents The paper proposed/recommended The data suggest that
比較	The author compared This study compared
分析	is/are analyzed
指摘	It is pointed out

■(2)-4 英文表現において注意すべきポイント

(2).4.1 数字(『TOEFL®テスト必修ライティング攻略ゼミ』p.43より一部抜粋)

(2).4.1.1 アルファベット綴りで数を表記する場合

- ・文の初めの部分を数字で始めるとき
- ・数の少ない単語で数字の表記ができるとき
 - × 2 points/factors.... → O Two points/factors....
 - × In the 1st chapter.... → O In the first chapter....
- ・ただし、以下の場合は「1」を記号とみなすので、次のようになる。
 - × In Chapter one.... → O In Chapter 1....

(2).4.1.2 アラビア数字で数を表記する場合

- ・複数の数字が文の中で1つのかたまりとなって使われるとき
- ・数字をアルファベットで表記する場合、3つ以上の単語が必要であるとき
 - × two hundred fifty→O 250
 - × 25→O twenty five
- ・住所、日付、時刻、金額、単位、競技スコア、数学的比率、ページなどを書くとき

(2).4.2 日本語になっている外来語の英語表記

辞書などで確認してから使用すること

ex)エコツーリズム

- O ecotourism
- O eco-tourism
- × eco tourism

(2).4.3 略語

初出で詳細を表記してから使い始めること

- × The purpose of this study is to develop CDM project....
- O The purpose of this study is to develop Clean Development Mechanism (CDM)....

(2).4.4 使用文字

1バイト文字(半角英数字)のみを使用すること

 \times ! 、"

O 1), 2), (1), (2)

× [|

(2).4.5 できるだけシンプルに

*This is an article that an example of the town planning in Japan....

O This article shows an example of the town planning in Japan....

(2).4.6 表現のバリエーション

"」"ばかりを主語とする文の連続は避ける。

私は――をした。→ この研究では、――がなされた。

私は――を見出した。→ 筆者は――を見出した。

etc.

- · I found a lot of useful information that can be applied in China.
 - → In this study, a lot of useful information proves to be applicable to China.
- · I conclude that Ogawa Masayuki's view of homeland is....
 - → Ogawa Masayuki's view of homeland, the author concludes, is....

■(2)-5 英文タイトル・英文アブストラクト作成のチェックリスト

以上のことを踏まえて英語タイトルと英文アブストラクトを書き上げたら、このチェックリストに照らし合わせて、PAILを意識したタイトル、アブストラクトに仕上がっているかどうか、もう一度確認してみましょう。

■英語タイトル

日本語のタイトル自体が内容を明確に表現しているか?
日本語のタイトルと英語のタイトルは内容が一致しているか?
両者とも長すぎないか?(英文タイトルは10語から12語が目安)
両者ともキーワードが十分入っているか?
両者とも副題を上手に使えているか?
同じ単語や、ほとんど同じ意味の単語が複数回使われていないか?
冠詞や単数・複数の用法が適切か?
略語が含まれていないか?
簡潔に書けているか?
名詞句を使いましょう。疑問文を使うより学術的に見えます。

- ・本当に「○○に関する研究」と言わなければならないのかを考えましょう。省略 しても意味がわかる場合は必要ありません。どうしても言いたい場合は、Study on... と(A)Study of... はOK。Study about... は使いません。
- ・関係代名詞を使用する必要があるかどうか考えましょう。前置詞を使って表現できるのであれば、その方がシンプルにまとまります。

■英語アブストラクト	
□ 全体の流れは背景、目的、方法、成果、結論など読者の期待する情報提示のパタ	
一ンに一致しているか?	
□ 研究背景は長すぎないか?(通常1文で示し、省略も可)	
□ 研究目的は明示できているか?	
□ 研究方法、前提となるモデル、仮説などは提示できているか?	
□ この研究の主要な発見、第一に伝えたい成果は明瞭に述べられているか?	
□ 研究目的と結論は対応しているか?	
□ 各章の紹介をしているだけの要旨になっていないか?	
□ 本文に記載されていないことを書き加えてないか?	
□ 情報を含んでいない文章、言い回しを使ってないか?	
□ 時制は正しいか?(主動詞に下線を引いてチェックする)	
□ 動詞は主語の単数・複数に対応しているか?(主動詞に下線を引いてチェックする)	
□ 主語は抜け落ちてないか、また曖昧な仮主語はないか?	
□ 能動態を用いたストレートな表現となっているか?	

■(2)-6 英文ライティングに役立つ文献・ウェブサイトリスト

ここでは研究論文・レポートを英語で書くときに役に立つ文献・ウェブサイトなどを紹介します。タイトル、アブストラクト、そして本文を書くときに有用ですから、積極的に利用してください。なお文献に関してはヘルプデスクルームにすべて配備してあります。

学習英和辞典

高校時代に、いわゆる学習英和辞典と呼ばれる種類の辞書を一冊は使用していると思いますが、それらには、単語の意味だけでなく、用例や使い方が載っています。大学でのリーディングのレベルに合わなくなった学習英和辞典であっても、用例や用法の解説がライティングには参考になるので活用しましょう。

Dictionaries

英語の辞書は、読む際に語句の意味を調べるだけでなく、英語を書く際には、動詞などの用法についての情報を得るために使います。次のいわゆる英英辞典は、英語学習と英語研究を考える際には必ず名前が挙がるものです。①、②、または③がお薦めです。

① Longman Dictionary of Contemporary Englis, 4th ed. (2005) Longman. 第一部 I. 3.の「お役立ち! 外国語学習のための推薦図書・ウェブサイト」を参照のこと。

- ② *Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 7th ed. (2005) Oxford University Press. 同上。
- ③ Macmillan English Dictionary (2007) Macmillan Education. 同上。
- Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary, 4th ed. (2006) Harper Collins Publishers.

同上。

(1997) Longman Essential Activator (1997) Longman.

①のCDにデータが含まれているLongman Language Activator, 2nd ed.(2002)の類似辞典で、中級者向け。各動詞の類義語がわかりやすく書かれており、説明も詳細。また、keywordをめぐるさまざまな表現を知ることができる。関連語と文型の解説もあり、文字も大きくレイアウトされていて読みやすい。本学図書館所蔵。

Collocation (連語) 関係辞典

単語同士の結びつきが正しくないと、一つ一つの単語の意味は正しくても、全体としての意味が通じません。ここでは動詞句、形容詞句などを中心にライティングに役立つ辞書類を挙げます。

(6) The BBI Dictionary of English Word Combinations, Rev. ed. (1997) John Benjamins Publishing.

第一部Ⅱ.3.の「お役立ち!外国語学習のための推薦図書・ウェブサイト」を参照のこと。

- ⑦『新編英和活用大辞典』(1995)研究社同上。
- ⑧ 『動詞を使いこなすための英和活用辞典』(2006) 朝日出版社

これもコンパクトで持ち運び可能。動詞句(例check inなど)を多数掲載しており、例文も豊富。英和辞書に載っていない連語を調べるにも役立つ。中央にコラム「副詞/前置詞から動詞句をつかむ!」があり、読み物としても面白い。たとえばawayの項目では「『動き』を伴うほとんどの動詞とともに使うことが出来る」という解説があり、その下に意味別の例文を多数掲載している。

文法参考書

9 『マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編』(2005) Cambridge University Press

英語103,106のテキスト。具体的シチュエーションにおける英文表現の例文を多数示している。文法項目は網羅的で、likeとasなど間違えやすい用法については項目を分けて詳述してある。文法の復習に役立つだけでなく、練習問題もついているので自習にも最適。

⑩『英語ライティングルールブック』(2004) DHC

文法参考書としても使える簡潔な文法編に続いて、語法編と句読点編が有益。語法編では間違いやすい類義語の使い分けや、英語と日本語のずれなどを例文を用いてわかりやすく説明してある。ともすれば軽視されがちな句読点についての詳細な説明はライティングには必須。

ライティング参考書

① 『Judy先生の英語科学論文の書き方』(2000) 講談社

科学論文を対象にしているが、政策科学部における英文ライティングにふさわしい論文執筆手順や例文がわかりやすく書かれている。特にタイトルとアブストラクトの項目は、重要ポイントが非常に明快に示されており、チェックリストもついている。付属のCD-ROMには最重要基本単語65語を用いた例文のみならず豊富な文例がすべて収録されている。

⑩ 『決定版英語エッセイ・ライティング』(2006) コスモピア

英文でレポート(essay)を書くプロセスをフローチャートでわかりやすく示している。とくに、問題のある具体的例とそれに修正を加えた模範例を例示しているので、自分で英文を執筆する際に役に立つ。資料収集・ブレーンストーミングなどエッセイ・ライティングのプロセス全般について述べているので、使いやすい。

③『英語論文―すぐに使える表現集』(1999) ベレ出版

タイトルや論文の目的を述べる表現例など、日本語に対応した英語の文例が豊富。図表や注の記載方法など細かな点までカバーしており、英語で修士論文などの学位論文を執筆する際にも対応できる。本学図書館所蔵。

(4) 『アカデミックライティング入門─英語論文作成法』(1998) 慶應義塾大学出版会

この本の特徴は、論文執筆にかかわる実際的な技術だけでなく、planning & researching の章で執筆前に行うべきことに大きくページを割いていることである。たとえばよいトピックとは何かのセクションでは、これに答える短い英文を読み質問に答えることで、ポイントを理解できる構成になっているので自習にも向く。例文も豊富。本学図書館所蔵。

(1) 『英語論文表現辞典』(1999) 北星堂書店

研究者までを対象に含んだ上級者向け。句読法や文法にかかわる総論、論文構成に即した文

例が豊富な構成編、自然な英語を思いつかないときに役立つ和英編などから構成され大変網羅 的である。本学図書館所蔵。

⑥ 「英語論文に使う表現文例集」(1996) ナッメ社

よく言及され関連ウェブサイトも出現している。体裁についての簡単な説明の後は、目的にあった表現が列挙されており、文法的な解説もあってわかりやすい。文献リスト、注の書き方もついており、カラー版で見やすい。

① 『英文レポートの書き方とすぐに使える例文集』(2001) ベレ出版

ビジネスレポートまで射程に入れた表現例集。「技法別英語表現」の章では書き出しから締め括りまでによく使われる表現を列挙、「陳述」、「提案」など機能別、また品詞別の文例もまとめて例示している。数にまつわる表現や経済と企業にかかわる表現例も示されている。

(® 「TOEFL®テスト必修ライティング攻略ゼミ—CBT受験決定版 | (2005) 桐厚書店

書名どおりTOEFLのライティング部門における得点アップを第一目標としているが、一般英文ライティングに使える基本情報もカバーしている。巻末には問題集や添削指導例もついているので、特にTOEFL® Writing Testの受験を考えている人にお薦め。2001年版(ピアソン・エデュケーション)は本学図書館所蔵。

ウェブサイトやワープロの機能

(19) 『「英語論文に使う表現文例集」のレジュメ』

http://homepagel.nifty.com/kamegaya/ei_honbu.htm

上記®を簡潔にまとめたもの。タイポ(入力間違い)も少なく、本を買わなくても大体のことはわかる。とくに「結論・要約」の章のサマリーの項目はアブストラクト執筆に役立つ。

② 『英語論文で見られる良くない表現 |

http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~minobe/class/bad_eng_expressions.html 科学系論文を例にとってあるが、文・社系に共通の誤りも多い。文法的な解説として読んでもよい。

(1) "Writing an Informative Abstract"

英語で論文要約を書く際の心得についてのアメリカ社会学会のサイト。英語だが、アブストラクトを構成する4つの部分と例文を1ページ程度で簡潔にまとめている。

② Microsoft社のソフトウェアWordに付属の類義語辞典

第一部Ⅱ、3.の「お役立ち! 外国語学習のための推薦図書・ウェブサイト」を参照のこと。

2 日本語版 英文レポート執筆要項 「APAスタイルによる英語ライティングのフォーマット法」

政策科学部において、英語レポートや原稿を作成・提出する時、また、本学部が主催するライ ティングコンテストなどに応募する時は、次の指示に従ってください。

この資料は以下の5部構成になっています。

- I. 題名と本文
- Ⅱ. 本文中の引用
- Ⅲ. 参考文献
- Ⅳ. 図表
- V. 写真

英語レポートのフォーマットを整えることは、英語を学ぶ上でとても有益です。ここで示されている重要事項のほとんどは、皆さんが既に学んだか、今学んでいることです。レポートを正しいフォーマットで書くことは重要です。レポートで、素晴らしい考えを表現しようとしているのに、不適切なフォーマットのために低い評価しか得られないということは、避けなければなりません。

APAは "The American Psychological Association" (米国心理学会)の頭文字をとったものです。APAスタイルは、社会科学の分野で論文を書く人々にとって標準的なフォーマットの一つです。コンピュータを使用したライティングフォーマットはよく変更されますので、最新の更新情報や、より詳しい情報を得るためには、次のウェブサイト上のFAQを参照してください。(www.apastyle.org)

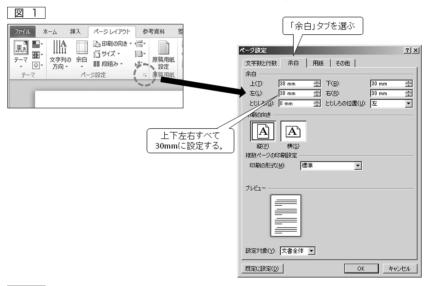
レポートやライティングコンテストなどに作品を提出する学生は、次ページ以降の書式を参考にしてください。なお、詳細は担当教員の指示に従ってください。。

I. 題名と本文

書式のルール

■ 全体に関して

- 1. マイクロソフトワード (Microsoft Word) を使用してください。以下の図は大学のオープンパソコンルームに入っているWord 2010の例です。
- 2. 用紙はA4 サイズを使用してください。
- 3. 上下左右の余白は3cmに設定してください(図1)。
- 4. フォントはTimes New Roman、文字の大きさは 12-pt です (図2)。







■ 題名に関して

- 5. 題名の文字の大きさは14-ptで、太字にしてください。
- 6. 題名は中央に位置するようにします(中央揃え)。タイトルに下線は引かないようにしてください。
- 7. 題名と副題は、各単語(動詞、名詞、代名詞、形容詞、副詞)の最初の文字を大文字にします。3字以下の前置詞、冠詞、接続詞は大文字にはしません(Model Exampleを参照)。
- 8. 題名と名前の間は12-pt の大きさで3行空けます。
- 9. 名前と本文の第1パラグラフの間は12-ptの大きさで3行空けます(引用文献リストに 記載する顧名は、顕名の最初の単語と固有名詞の最初の文字を大文字で表します)。

■ 本文

- 10. 本文は、参考文献の終わりまで1.5の行間にします(図3)。
- 11. 段落のはじめは5スペース字下げ(インデント)してください。
- 12. ピリオド (.)、コロン (:)、セミコロン (;)、クエスチョンマーク (?)、エクス クラメーションマーク (!) の後は、1スペースとります。
- 13. 引用符を使用する時は、ピリオドやコンマを引用符の前(引用符で囲まれた内側)に 挿入してください。(例: .".")
- 14. 本文と各セクションの題名は左寄せにします。均等割り付けは行わないでください (図4)。(左寄せするということは、左の書き始めがきれいに揃うということで、右側 は、でこぼこになる状態です。均等割り付けを行うと、左の書き始めも右の書き終わりもきれいにそろってしまいます。)

図 3

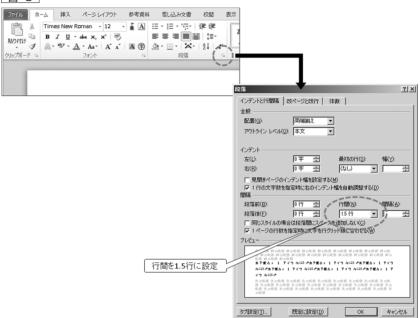


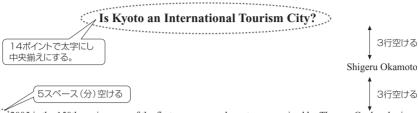
図 4



■ アブストラクト

15. アブストラクトは別紙を添付して提出します。タイトルとアブストラクトの書き方については、このブックレットのⅢ. 1「英語で書くタイトルとアブストラクト」を参照してください。

MODEL EXAMPLE



2005 is the 150th anniversary of the first overseas package tour organized by Thomas Cook, who is the father of mass tourism. Today, tourism is one of the world's largest industries, responsible for nearly 10% of global GDP, according to the World Travel and Tourism Council (www.wtc.org). Japan needs to open its door to foreign tourists, not only to receive benefits, but also to broaden the mind and foster peace and understanding between nations. What are the essential things needed to receive foreigners? A lot of historical architecture? Of course that is needed, but accessible transportation and local Japanese restaurants are also essential. The reason for the former is that if there is no transportation in a city, no tourist can visit historical places. The reason for the latter is that having a local meal at a local restaurant will encourage both foreigners and local people to foster an international sense. Here, Kyoto City is focused on, as one of the most famous cities in Japan. This essay attempts to show whether Kyoto City is ninternational tourism city from the view of transportation and local restaurants.

(左寄せにする。)

Transportation in Kyoto City

To be an international tourism country, it is necessary to have comfortable and easily accessible transportation systems. There are two typical kinds of transportation - buses and taxis.

The first is buses. There are 2 types of buses. One is sightseeing buses. The other is local public buses.



The former do not have good accessibility though they are comfortable. There are few sightseeing buses for foreign tourists, and it is difficult to find agencies. Only one agency which operates scheduled sightseeing buses is found near Kyoto Station. However, all ads and pamphlets are written in only Japanese. Just a small note (the left picture) written in English and Chinese and Korean can be found. In fact, there is much room for improvement with regard to the accessibility of sightseeing buses.

The latter - local buses - are very cheap and found anywhere. It costs only 220 yen to take a bus, so the access is very easy. Many of the routes used by visitors have announcements in English. However, the problem is comfort. The buses can be pretty crowded now and then.

Ⅱ. 本文中の引用

本文中の引用は、読者が参考文献を参照するためのものです。もしその資料が1人の著者によって書かれた書籍であるならば (Shimamura, 2005, chap. 3)、2人の著者であれば (Cheek & Buss, 2006, p. 332)というように示します。著者名の後に、出版年と引用した章、またはページナンバーも必要です。

著作からの引用や著作を自分の言葉で要約した場合は、元の資料を参照できるように示してください。自分の考えではなく、他者の考えや言葉であるということが、きちんと読み手に伝わらなければなりません。また、資料の言葉をそのまま引用する場合は、二重引用符("")で示してください。

このように、直接の引用のみならず、著者の文章を要約した場合にも、書籍、雑誌、学会誌、新聞などの違いに関わらず、参照元を挙げてください。APAスタイルでは、著者の姓と出版年を文章の適切な場所に挿入します。

例

■ 単独の著者による文献の引用

A recent study of stress levels (Brown, 2006, p. 206) reveals gender-related differences in these levels.

もしくは.

In a recent study of stress levels, Brown (2006, p. 206) discusses genderrelated differences in these levels.

■ 2名の著者による文献の引用

In a recent study, Williams and Jones (2004, pp. 303-5) found . . .

Ⅲ. 参考文献

使用したすべての文献は、作品の最後に参考文献のリスト(References)として記載します。 文献は第一著者の姓をアルファベット順に並べます。

リストには、次のデータを記載してください。

- 1. 著 者: 著者が複数いる場合は、資料にあるのと同じ順序で、姓とイニシャルを書いてください。また、それぞれの著者をコンマで区切ってください。著者が示されていない場合は、文献の題名から書き始めてください。
- 2. 出版 年:著者の記載の次に、括弧()を用いて出版年を書いてください。また、括 弧を閉じた後にピリオドを入れてください。出版年が不明確な場合は、 "n.d."と括弧に書いてください。
- 3. 書誌情報:学会誌の場合は、論文の題名、学会誌名、巻、ページを記載してください。 書籍の場合は、書名、出版された都市名、出版社名を記載してください。

参考文献の配置

本文と参考文献の間は3行空けてください。参考文献と1つ目の文献の間は1行空けてください。本文と同じく、左寄せで均等割り付けは使いません。2行目以降の字下げ(インデント)は5スペースです。これは「ぶら下げ」と呼ばれており、マイクロソフトワードで作成することができます(図5)。

図 5



書籍・雑誌・新聞などの引用の例

注意:以下の例にあるように、**書名や雑誌名は斜体にするが、論文・記事名は斜体にしない**。また、書名等は題名、副題共に最初の単語の最初の文字のみ大文字にする。

■ 複数の著者によって書かれた書籍

Strunk, W., Jr., & White, E. B. (1979). The elements of style (3rd ed.). New York: MacMillan.

■ 編纂された書籍

Letheridge, S., & Cannon, C. R. (Eds.). (1980). *Bilingual education: Teaching English as a second language*. New York: Praeger.

■ 編纂された書籍の中の論文や章

Hirao, H., Saito, T., & Sato, N. (2001). Contemporary issues and new directions in adult development of learning and memory. In J. Kimura (Ed.), *Aging in the 2000s: Psychological issues* (pp. 241-282). Tokyo: Japan Psychological Association.

■ 単独の著者による学会誌の論文

Onishi, A. (1995). Perceptual comparisons through the mind's eye. *Memory and Cognition*, 10, 622-684.

■ 2名の著者による学会誌の論文

Gondo, C., Ohno, S., & Inaba, M. (2003). Knowledgeble Archives ni yoru toshi no kioku to keishou no tame no platform ni kansuru kenkyu [Platform for preservation and sharing of urban memories based on a concept knowledgeable archives] Art Research, 3, 221-232.

Wegener, D. T., & Petty, R. E. (1994). Mood management across affective states: The hedonic contingency hypothesis. *Journal of Personality & Social Psychology*, 66, 1034-1048.

■ 単独の著者による雑誌記事

Jensen, L. (1993, December 30). What's love got to do with it? Time, 69, 643-644.

■ 単独の著者による新聞記事

Porter, E. (2006, July 8). Jobs data indicates economy is slowing. New York Times, pp. C1, C4.

インターネットからの引用の例

■ 大学の公式ウェブサイト内の文書

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, From Vanguard University, Department of Psychology Web site:

http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.aspx?doc id=796

■ 独立サイト内の文書(日付不明)

Nielsen, M. E. (n.d.). Notable people in psychology of religion. Retrieved August 3, 2001, from

http://www.psywww.com/psyrelig/psyrelpr.htm

■ 独立サイト内の文書(著者・日付不明)

Gender and society. (n.d.). Retrieved December 3, 2001, from http://www.trinity.edu/~mkearl/gender.html

■ データベース上の新聞記事や学会誌の論文

Mershon, D.H.(1998, November-December). Star Trek on the brain: Alien minds, human minds. American Scientist, 86, 585. Retrieved July 29, 2002, from Expanded Academic ASAP database.

参考文献のリストの例

References

American Psychiatric Association. (2000). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders*. (4th ed., text revision). Washington, DC: Author.

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2000, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:

http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.aspx?doc_id=796

Garrity, K., & Degelman, D. (1990). Effect of server introduction on restaurant tipping. Journal of Applied Social Psychology, 20, 168-172. Abstract retrieved July 23, 2001, from PsycINFO database.

- Gender and society. (n.d.). Retrieved December 3, 2001, from http://www.trinity.edu/~mkearl/gender.html
- Murzynski, J., & Degelman, D. (1996). Body language of women and judgments of vulnerability to sexual assault. *Journal of Applied Social Psychology*, 26, 1617-1626.
- Nielsen, M. E. (n.d.). Notable people in psychology of religion. Retrieved August 3, 2006, from http://www.psywww.com/psyrelig/psyrelpr.htm
- Paloutzian, R. F. (1996). Invitation to the psychology of religion (2nd ed.). Tokyo: Tuttle.
- Shea, J. D. (1992). Religion and sexual adjustment. In J. F. Schumaker (Ed.), *Religion and Mental Health* (pp. 70-84). New York: Oxford University Press.

Ⅳ. 図表

図表は簡潔でわかりやすいものにしてください。白黒で印刷されるため、微妙な色使いは 避けなければなりません。

V. 写真

写真は作品の内容を読者にわかりやすく伝えるのが目的ですから、必ず作品テーマと写真が一致していなければなりません。最近の例では「京都のごみ問題」、「ミャンマーの政治」、「フィリピンのごみ山」があります。読者が見て理解できるように、はっきり写った写真を使用し、文章の文脈に合うように配置してください。また、写真を説明する見出しも必要です。

このスタイルガイドは下記の第五版に基づいて作成されています。

Publication Manual of the American Psychological Association (Ref BF 76.7. P83 2001).

3 英語版 ・ 英文レポート執筆要項 "How to Format Your Essay Using APA STYLE GUIDELINES"

If you are writing an essay, or submitting a manuscript to the College of Policy Science, or if you would like to submit an essay for a writing contest (essay contest)

This handout covers the following issues:

- I. Title and Body
- II. In-Text Citations
- References
- IV. Graphics
- V. Photo Essav

You will find formatting your essay in English a valuable learning experience. Most of the points covered here are what you may have already learned or are learning now. For some of you this information will be a simple review. Formatting your essay correctly is important. If you have good ideas in your essay, how sad it would be for it to be marked lower or rejected because of inadequate formatting.

APA is an acronym of "The American Psychological Association." APA style guidelines are the standardized writing format, which is commonly used among those who write a research paper in social sciences. Because the writing format for electronic media changes rapidly, please check the following websites for the latest additions, changes, and more-detailed clarifications: (www.apastyle.org) http://owl.english.purdue.edu/owl>

I. The Title and Body of the Essay

FORMATTING DIRECTIONS

■ General directions

- 1. Use Microsoft Word.
- 2. Use A4 size paper.
- 3. Keep a margin of 3 cm (on all 4 sides of the paper).
- 4. Use 12-pt. and Times New Roman font.

■ Title

- 5. Put your title in 14-pt. Bold Text.
- 6. Center the title; do not underline the title.
- Capitalize all first letters of each main word in the title and subtitles (nouns, adjectives, verbs are capitalized). Prepositions are not capitalized.
- 8. Space down 3 times from the Title to your name, using 12-pt. spacing.
- 9. Space down 3 times from your name to the 1st paragraph, also using 12pt. spacing.

Body

- Use 1.5 spacing throughout the body to the end of the document (including the References).
- 11. Paragraph Indentation: 5 spaces.
- 12. Put one space after a period (full stop) (.), colon (:), semicolon (;), question mark (?), and exclamation mark (!).
- 13. When using quotation marks, place all periods and commas inside the end quotation mark (examples: .".")
- 14. Make sure the body of your paper is left aligned and not justified. (With left aligned text, the left margin forms a straight line and the right margin is ragged. With justified text both the left and right margins form a straight line. In other words, flush left, creating an uneven right margin.)

Abstract

15. Please attach an abstract of your essay on a separate sheet of paper. As for how to write a title and abstract in English, please refer to III, 1, in this booklet.

Is Kyoto an International Tourism City?

Hanako Seisaku

Abstract

2005 is the 150th anniversary of the first overseas package tour organized by Thomas Cook, who is the father of mass tourism. Today, tourism is one of the world's largest industries, responsible for nearly 10% of global GDP, according to the World Travel and Tourism Council (www.wttc.org). Japan needs to open its door to foreign tourists, not only to receive benefits, but also to broaden the mind and foster peace and understanding between nations. What are the essential things needed to receive foreigners? A lot of historical architecture? Of course that is needed, but accessible transportation and local Japanese restaurants are also essential. The reason for the former is that if there is no transportation in a city, no tourist can visit historical places. The reason for the latter is that having a local meal at a local restaurant will encourage both foreigners and local people to foster an international sense. Here, Kyoto City is focused on, as one of the most famous cities in Japan. This essay attempts to show whether Kyoto City is an international tourism city from the view of transportation and local restaurants.

Transportation in Kyoto City

To be an international tourism country, it is necessary to have comfortable and easily accessible transportation systems. There are two typical kinds of transportation - buses and taxis. The first is buses. There are 2 types of buses. One is sightseeing buses. The other is local public buses.



The former do not have good accessibility though they are comfortable. There are few sightseeing buses for foreign tourists, and it is difficult to find agencies. Only one agency which operates scheduled sightseeing buses is found near Kyoto Station. However, all ads and pamphlets are written in only Japanese. Just a small note (the left picture) written in English and Chinese and Korean can be found. In fact, there is much room for improvement with regard to the accessibility of sightseeing buses.

The latter - local buses - are very cheap and found anywhere. It costs only 220 yen to take a bus, so the access is very easy. Many of the routes used by visitors have announcements in English. However, the problem is comfort. The buses can be pretty crowded now and then.

II. How to Put in Your In-Text Citations

EXPLANATION

The purpose of the in-text citation in our essays is to refer readers to the list of "References." If the source is from a book written by one author, e.g., (Shimamura, 2005, chap. 3) or two authors as in (Cheek & Buss, 2006, p. 332), we would like to have the year and chapter or page number. However, many of the in-text citations recently have been from web sites.

Please make sure to cite the source of a quotation or a paraphrased summary of an author's words. Ideas and words of others must be formally acknowledged. Direct citations should be clearly shown with double quotation marks.

Therefore, please cite the source of either a quotation or paraphrased material, regardless of the type of source: book, magazine or journal article, newspapers, etc. The APA uses the author-date method of citation; that is, the last name of the author and the year of publication are inserted in the text at the appropriate point.

MODEL EXAMPLES

Citing a work by a single author

A recent study of stress levels (Brown, 2006, p. 206) reveals gender-related differences in these levels.

OR,

In a recent study of stress levels, Brown (2006, p. 206) discusses gender-related differences in these levels.

■ Citing a work by two authors

In a recent study, Williams and Jones (2004, pp. 303-5) found...

■ Citing Electronic Sources

The APA is commonly used in Britain and in the Social Sciences (www.vanguard.edu).

■. How to Put in your References

EXPLANATION

The list of references to be included at the conclusion of your paper lists all of the works that you cited in your paper. Please put your "References" on the final page of your manuscript.

Entries are organized alphabetically by surnames of first authors. Put three lines between the body and the "References." Put one line between "References" and the first entry.

References Alignment: Make sure the references are also left aligned and not justified. Indent the second and following lines of each entry 5 spaces. This is called "hanging indent," which you can make by Microsoft Word.

Most reference entries have three components:

- Authors: Authors are listed in the same order as specified in the source, using surnames and initials. Commas separate all authors. If no author is identified, the title of the document begins the reference.
- Year of Publication: In parenthesis following authors, with a period following the closing parenthesis. If no publication date is identified, use "n.d." (no date) in parenthesis following the authors.
- Source Reference: Includes title, journal, volume, pages (for journal article) or title, city
 of publication, publisher (for book).

Examples of how to cite books, journals, magazines, newspapers, etc.

Note: The second and subsequent lines of a citation should be indented five spaces, "hanging indent."

Book by one or more main authors

Strunk, W., Jr., & White, E. B. (1979). The elements of style (3rd ed.). New York: MacMillan

■ Edited book

Letheridge, S., & Cannon, C. R. (Eds.). (1980). *Bilingual education: Teaching English as a second language*. New York: Praeger.

Article or chapter in an edited book

Hirao, H., Saito, T., & Sato, N. (2001). Contemporary issues and new directions in adult development of learning and memory. In J. Kimura (Ed.), *Aging in the 2000s: Psychological issues* (pp. 241-282). Tokyo: Japan Psychological Association.

Journal article, one author

Onishi, A. (1995). Perceptual comparisons through the mind's eye. *Memory and Cognition*, 10, 622-684.

■ Journal article, two authors

Gondo, C., Ohno, S., & Inaba, M. (2003). Knowledgeble Archives ni yoru toshi no kioku to keishou no tame no platform ni kansuru kenkyu [Platform for preservation and sharing of urban memories based on a concept knowledgeable archives] *Art Research*, 3, 221-232.

Wegener, D. T., & Petty, R. E. (1994). Mood management across affective states: The hedonic contingency hypothesis. *Journal of Personality & Social Psychology*, 66, 1034-1048.

Magazine article

Jensen, L. (1993, December 30). What's love got to do with it? Time, 69, 643-644.

Newspaper article, one author

Porter, E. (2006, July 8). Jobs data indicates economy is slowing. New York Times, pp. C1, C4

Examples of citing electronic sources

■ Web document on university program or department Web site

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:

http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.aspx?doc_id=796

■ Stand-alone Web document (not identified)

Nielsen, M. E. (n.d.). Notable people in psychology of religion. Retrieved August 3, 2001, from http://www.psywww.com/psyrelig/psyrelpr.htm

Stand-alone Web document (no author - not identified)

Gender and society. (n.d.). Retrieved December 3, 2001, from http://www.trinity.edu/~mkearl/gender.html

Newspaper and Journal article from database

Mershon, D.H.(1998, November-December). Star Trek on the brain: Alien minds, human minds. *American Scientist*, 86, 585. Retrieved July 29, 2002, from Expanded Academic ASAP database.

Example of a List of References

References

- American Psychiatric Association. (2000). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders*. (4th ed., text revision). Washington, DC: Author.
- Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2000, from Vanguard University, Department of Psychology Web site: http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.aspx?doc_id=796
- Garrity, K., & Degelman, D. (1990). Effect of server introduction on restaurant tipping. *Journal of Applied Social Psychology*, 20, 168-172. Abstract retrieved July 23, 2001, from PsycINFO database.
- Gender and society. (n.d.). Retrieved December 3, 2001, from http://www.trinity.edu/~mkearl/gender.html
- Murzynski, J., & Degelman, D. (1996). Body language of women and judgments of vulnerability to sexual assault. *Journal of Applied Social Psychology*, 26, 1617-1626.
- Nielsen, M. E. (n.d.). Notable people in psychology of religion. Retrieved August 3, 2006, from http://www.psywww.com/psyrelig/psyrelpr.htm
- Paloutzian, R. F. (1996). *Invitation to the psychology of religion* (2nd ed.). Tokyo: Tuttle.
- Shea, J. D. (1992). Religion and sexual adjustment. In J. F. Schumaker (Ed.), *Religion and Mental Health* (pp. 70-84). New York: Oxford University Press.

IV. Graphics

Make them clear and concise. They will be reproduced in black and white, so refrain from using different color nuances that would be difficult to discern.

V. Photo Essay

The photo essay is not to be a tourist diary. Connect your photos to a theme, as, for example: the garbage problem in Kyoto, politics of Myanmar, or Smokey Mountain in the Philippines (from topics of recent years).

Please choose photos which are clear and easy for the reader to see and understand. Arrange them on your essay in such a way that they are in context with your writing. Add a caption which explains the photograph.

This style guide has been adapted in parts from the 5th ed. *Publication Manual of the American Psychological Association* (Ref BF 76.7. P83 2001).